岡山市広報連絡資料〈市長記者会見資料〉

令和8年11月4日

不登校のこども・保護者に対する アンケート調査について

不登校のこども・保護者に対するアンケートを実施しましたので、調査結果についてお知らせします。

1 目 的

現在の状況・困りごとを調査し、こどもと保護者の意見を参考に施策を検討するため

2 内 容

年齢等に応じ、調査を実施（小学生低学年・小学生高学年・中学生・保護者）

①対象	令和7年度または令和8年度に不登校（病気以外）で概ね30日以上休んだ児童生徒及びその保護者
②調査期間及び方法	学校から配布し、令和8年8月1日（土）～8月24日（月）に回答（紙またはWEB）
③質問内容	【こども】困っていることや心配なこと、勉強方法 あったらいいと思う支援　など 【保護者】心配なこと、あればいいと思うこと 期待される保護者への支援　など

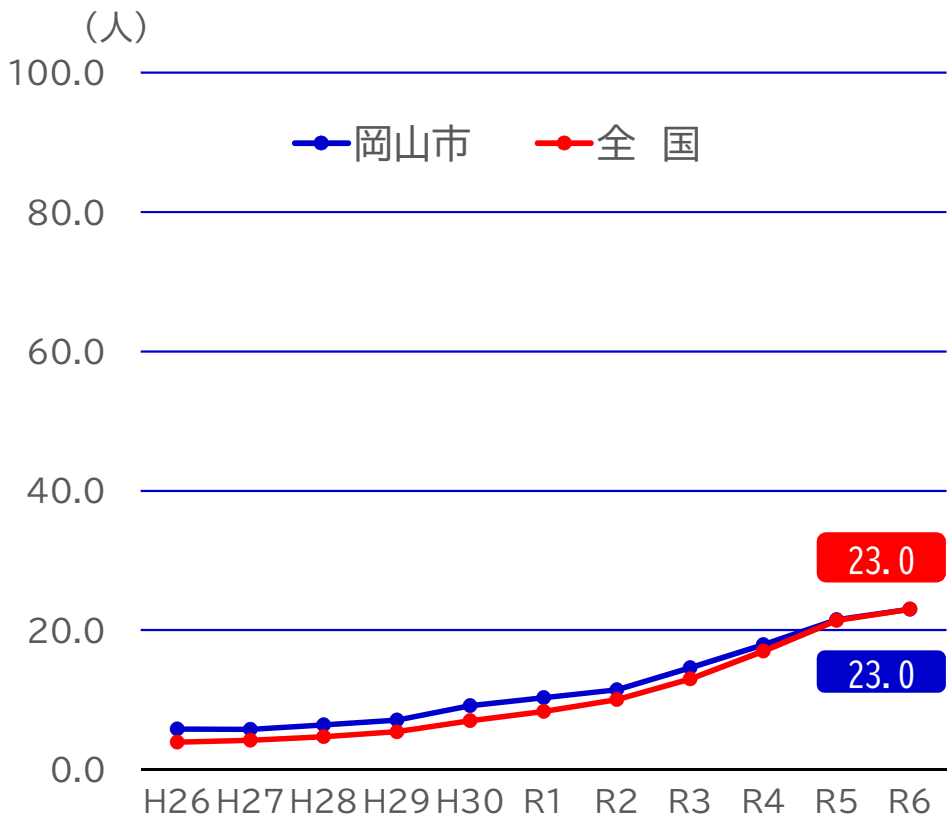
※詳細は別紙資料にてご確認ください。

【問い合わせ先】
岡山市　こども企画総務課　山本・石黒　　直通086-803-1220　内線30050・30053

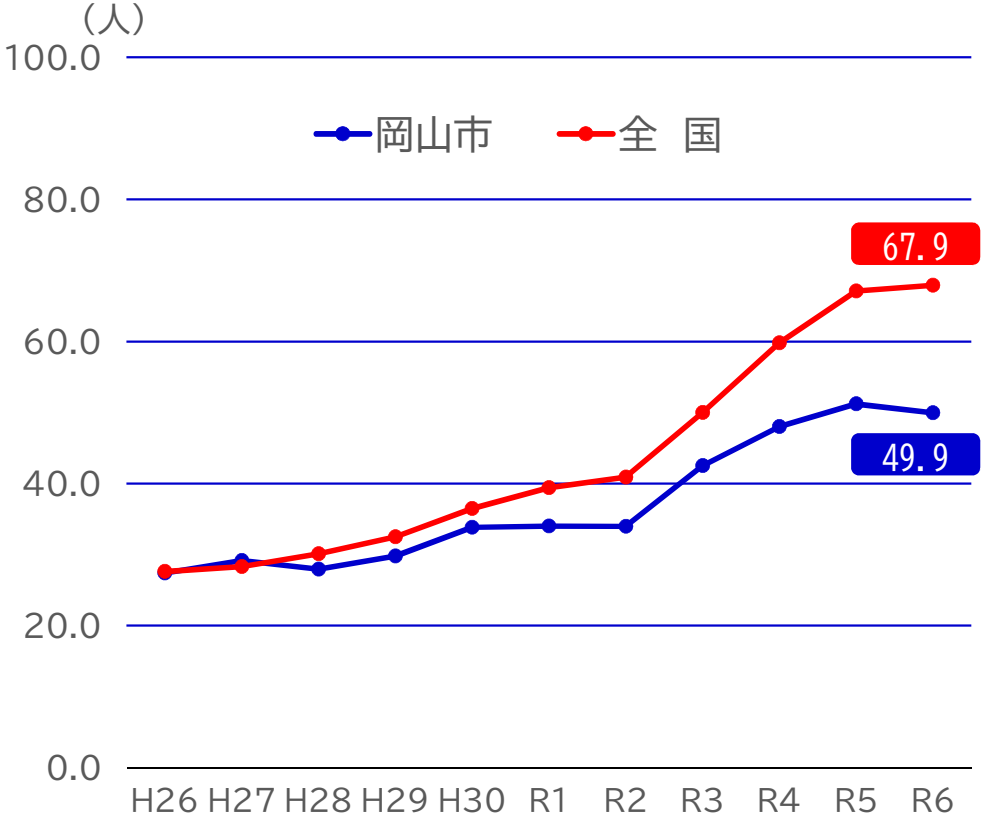
不登校のこどもの数の推移

市長記者会見資料
令和8年11月4日
（ 資 料 1 ）

小学校（1,000人当たりの不登校児童数の推移）



中学校（1,000人当たりの不登校児童数の推移）



不登校のこども・保護者に対するアンケート調査について

市長記者会見資料
令和8年11月4日
（ 資 料 2 ）

調査の目的

現在の状況・困りごとを調査し、こどもと保護者の意見を参考に施策を検討するため

調査内容

年齢等に応じ、調査を実施（小学生低学年・小学生高学年・中学生・保護者）

①対象	令和7年度または令和8年度に不登校（病気以外）で概ね30日以上休んだ児童生徒及びその保護者
②調査期間及び方法	学校から配布し、令和8年8月1日（土）～8月24日（月）に回答（紙またはWEB）
③質問内容	【こども】困っていることや心配なこと、勉強方法、あったらいいと思う支援　など 【保護者】心配なこと、あればいいと思うこと、期待される保護者への支援　など

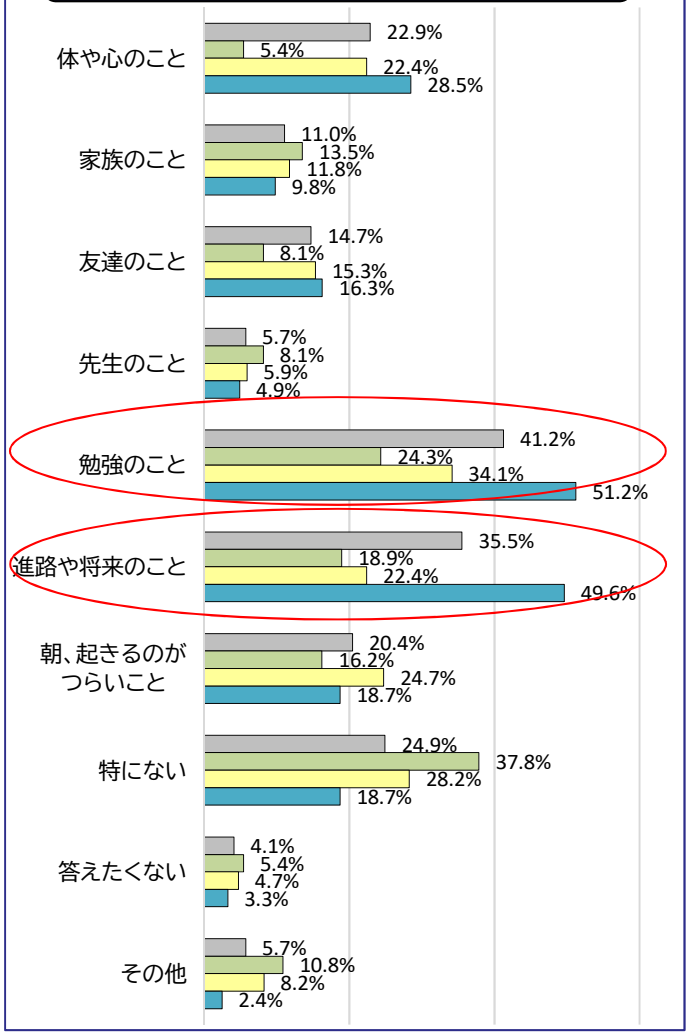
配布及び回収状況

種類	配付人数	有効回答数			有効回答率		
		紙	WEB	全体	紙	WEB	全体
小学生低学年（小1-小3）	131人	20件	17件	37件	15.3%	13.0%	28.2%
小学生高学年（小4-小6）	384人	56件	29件	85件	14.6%	7.6%	22.1%
中学生	726人	63件	60件	123件	8.7%	8.3%	16.9%
保護者	1, 241人	152件	125件	277件	12.2%	10.1%	22.3%
合計	2,482人	291件	231件	522件	11.7%	9.3%	21.0%

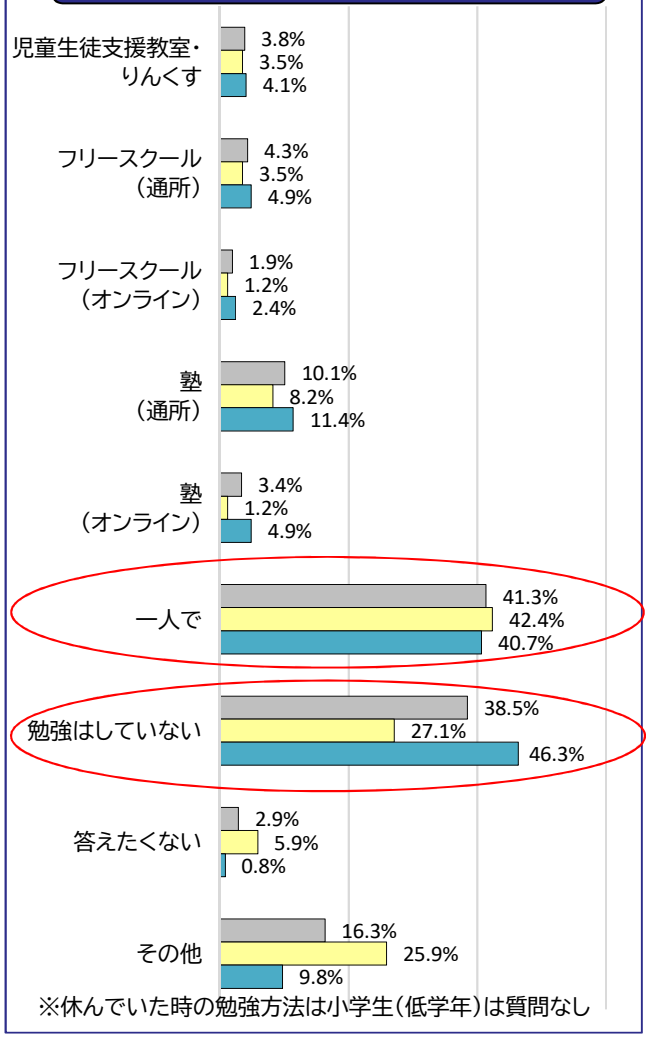
こどもに対するアンケート結果(主なもの)

市長記者会見資料
令和8年11月4日
(資 料 3)

①困っていることや心配なこと

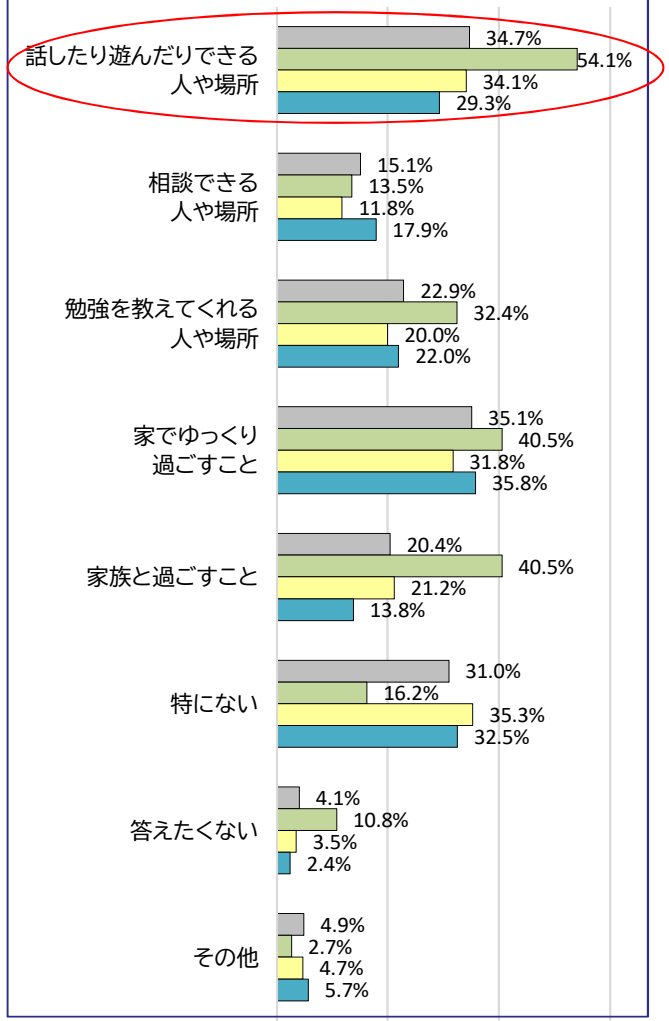


②休んでいたときの勉強方法



※休んでいた時の勉強方法は小学生(低学年)は質問なし

③あったらいいと思う支援



まとめ

① 困っていることや心配なこととしては、**学年が上がるにつれて、「勉強のこと」、「進路や将来のこと」が多くなっている。**

② 休んでいたときの勉強方法としては、「一人でする」が多い一方、「していない」も多い。

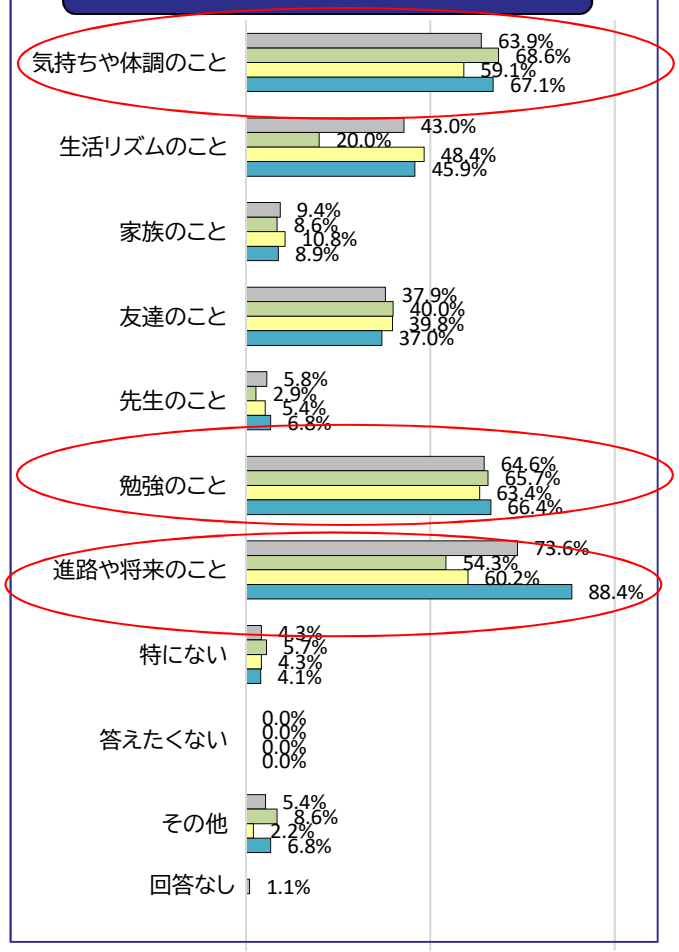
③ あったらいい支援としては、特に**低学年について、「話したり遊んだりできる人や場所」が多い。**

全体 (n=245)
小学生低学年(n=37)
小学生高学年 (n=85)
中学生(n=123)

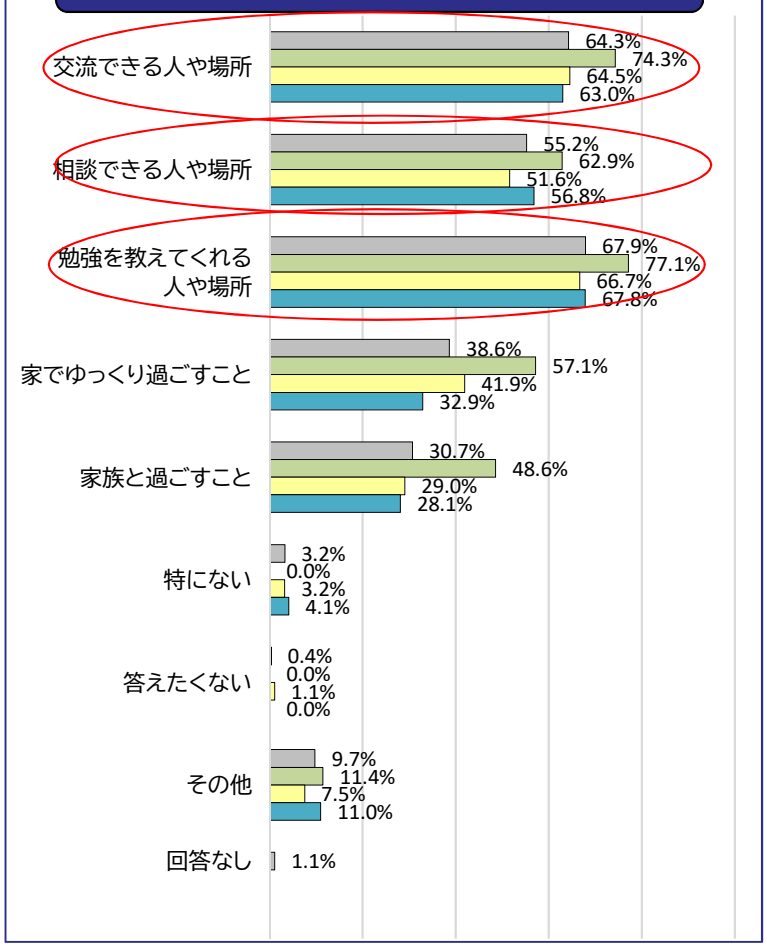
保護者に対するアンケート結果(主なもの)

市長記者会見資料
令和8年11月4日
(資 料 4)

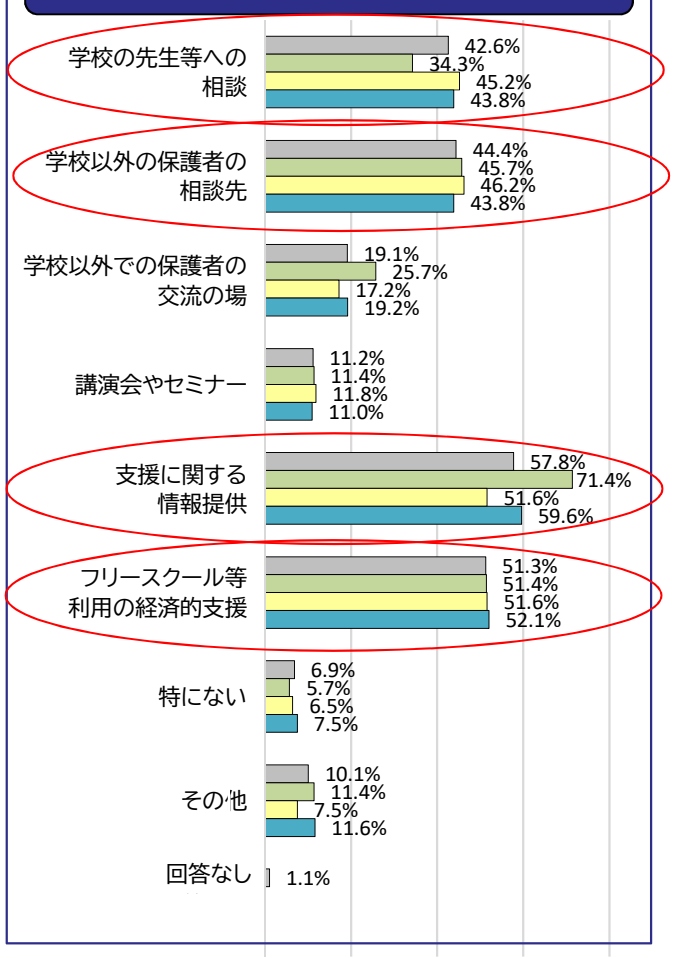
①こどものことで心配なこと



②こどもにあればいいと思うこと



③期待される保護者へのサポート



まとめ

① こどものことで心配なこととしては、**全ての区分で「気持ちや体調のこと」「勉強のこと」が多くなっている。学年が上がるにつれて「進路や将来のこと」が多くなる。**

② こどもにあればいいと思うこととしては、**「交流できる人や場所」「相談できる人や場所」「勉強を教えてくれる人や場所」が多い。**

③ 期待される保護者へのサポートとしては、**「支援に関する情報提供」「フリースクール等利用の経済的支援」が多く、「学校の先生等への相談」と同程度に「学校以外の保護者の相談先」が多くなっている。**

- 保護者全体 (n=277)
- 小学生低学年保護者(n=35)
- 小学生高学年 保護者(n=93)
- 中学生保護者(n=146)

アンケートから分かったこと

市長記者会見資料
令和8年11月4日
（ 資 料 5 ）

こどもも 保護者も 不安や悩みの中で 未来への道を探している。

○ 休むことでほっとしているこどもが多いが、不安を感じているこどもも多い。

○ 家で過ごしているこどもが多いが、学校に行きたいと思っているこどもや人との交流を求めているこどもも多い。

○ 年齢が大きくなるにつれて、勉強のことや進路・将来のことが心配。

○ 学校への期待も大きいが、学校以外での支援も求められている。

～自由記述より～
○先生には感謝している。
○担任の先生以外にも相談したい。
○フリースクールで自信が持てた。
○アンケートをしてくれてよかった。

求められる支援

こどもをゆっくり休ませ、保護者を支える支援

- 話を聞く
- ほしい情報を提供
- 保護者の不安に寄り添う



新たな一歩を踏み出すための支援

- どこにいても学べる仕組み
- 地域や人とのつながり
- 学校とのつながり



不登校のこども・保護者に対するアンケート調査

報 告 書

令和8年11月

岡山市

＊＊ 目　次 ＊＊

Ⅰ 調査の概要 1

1. 調査の目的 1

2. 調査設計 1

3. 配布及び回収状況 1

4. 調査結果の見方 2

Ⅱ 調査結果〔児童生徒〕 3

1.学年 3

2.今学年の通学状況 4

3.前学年の通学状況 5

4.学校を休んでいる(いた)ときの気持ち 6

5.今、困っていることや心配なこと 7

6.学校を休んでいる(いた)ときに過ごしている(いた)場所 8

7.行ったことのある、フリースクールの名前 9

8.学校を休んでいる(いた)ときの過ごし方 10

9.学校を休んでいる(いた)ときの勉強方法 11

10.あったらいいと思う支援 12

11.自由記述 13

Ⅲ 調査結果〔保護者〕 15

1.こどもの学年 15

2.今年度の登校状況 16

3.前年度の登校状況 17

4.学校を休む理由 18

5.学校を休んでいる(いた)ときの気持ち 19

6.こどもに関する心配ごと 20

7.学校を休んでいるときにこどもが過ごしている(いた)場所 21

8.学校を休んでいる(いた)ときの過ごし方 22

9.学校を休んでいる(いた)時の勉強方法 23

10.知っている支援 24

11.あればいいと思うこと 25

12.保護者のサポートとして、期待するもの 26

13.フリースクール等の民間施設の利用 27
14.利用したきっかけ 28
15.重視したこと 29
16.通う頻度 30
17.利用頻度（オンライン） 31
18.毎月の費用 32
19.学校を休んでいる児童生徒への支援についての意見（自由記述） 33

Ⅰ 調査の概要

1. 調査の目的

現在の状況・困りごとを調査し、こどもと保護者の意見を参考に施策を検討するため

2. 調査内容

年齢等に応じ、調査を実施（小学生低学年・小学生高学年・中学生・保護者）

（1）対象　令和7年度または令和8年度に不登校（病気以外）で概ね30日以上休んだ児童生徒及びその保護者

（2）調査期間及び方法　学校から配布し、令和8年8月1日（土）～8月24日（月）に回答（紙または WEB）

（3）質問内容　【こども】困っていることや心配なこと、勉強方法
あったらいいと思う支援　など
【保護者】心配なこと、あればいいと思うこと
期待される保護者への支援　など

3. 配布及び回収状況

区分	配布人数	有効回答数			有効回答率		
		紙	WEB	全体	紙	WEB	全体
小学生低学年（小1-小3）	131人	20件	17件	37件	15.3%	13.0%	28.2%
小学生高学年（小4-小6）	384人	56件	29件	85件	14.6%	7.6%	22.1%
中学生	726人	63件	60件	123件	8.7%	8.3%	16.9%
保護者	1,241人	152件	125件	277件	12.2%	10.1%	22.3%
合計	2,482人	291件	231件	522件	11.7%	9.3%	21.0%

4. 調査結果の見方

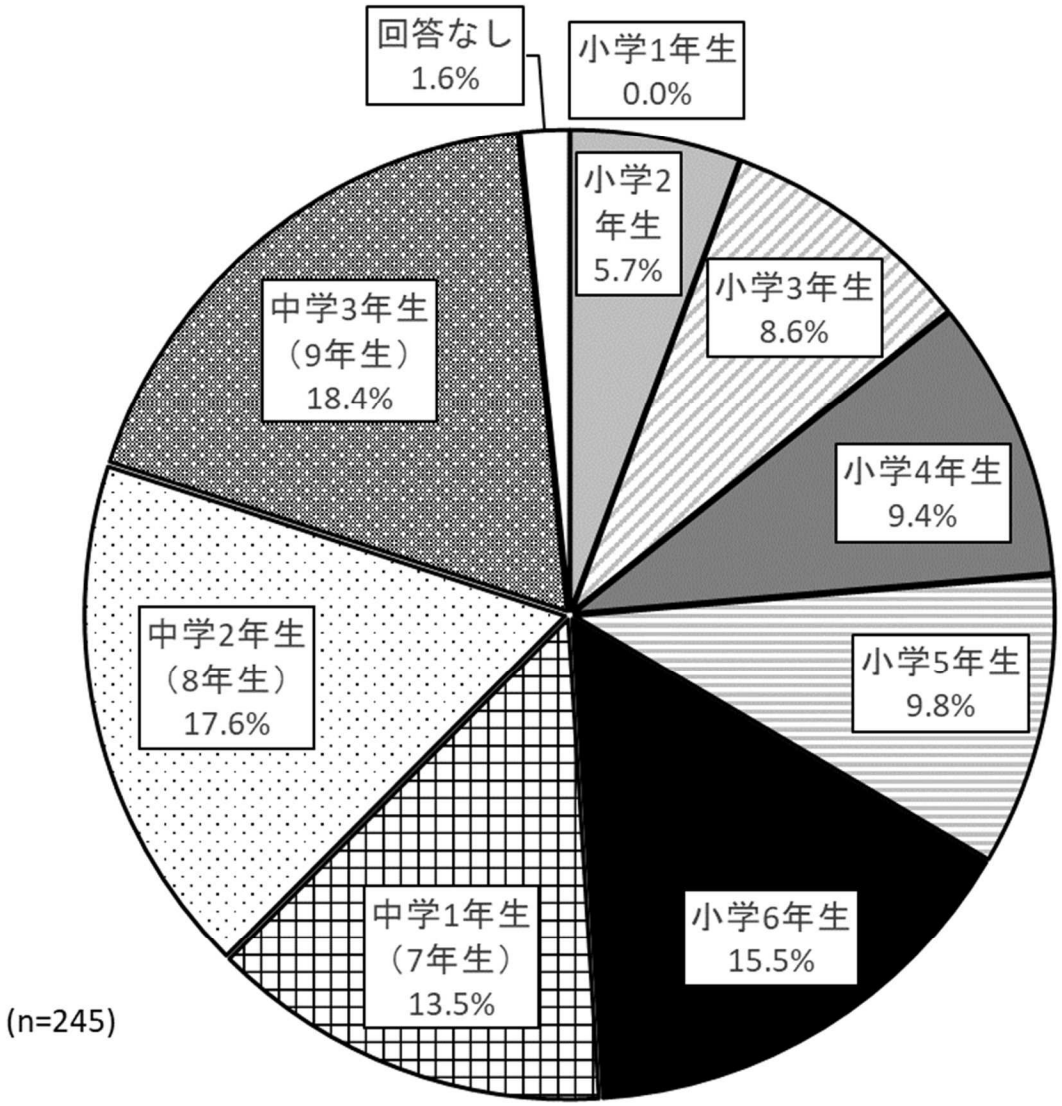
- 回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示し、小数点第2位を四捨五入しました。（比率の合計が 100.0%にならない場合があります。）
- 小学生低学年は、回答のしやすさを考慮し質問を5問（問 1・4・5・10・11）に絞って実施しました。

Ⅱ 調査結果〔児童生徒〕

1.学年

問1 現在、何年生ですか。(○は1つだけ)

児童生徒の学年は、「(中学3年生(9年生)」が 18.4%で最も多く、次いで「中学2年生(8年生)」が 17.6%となっています。



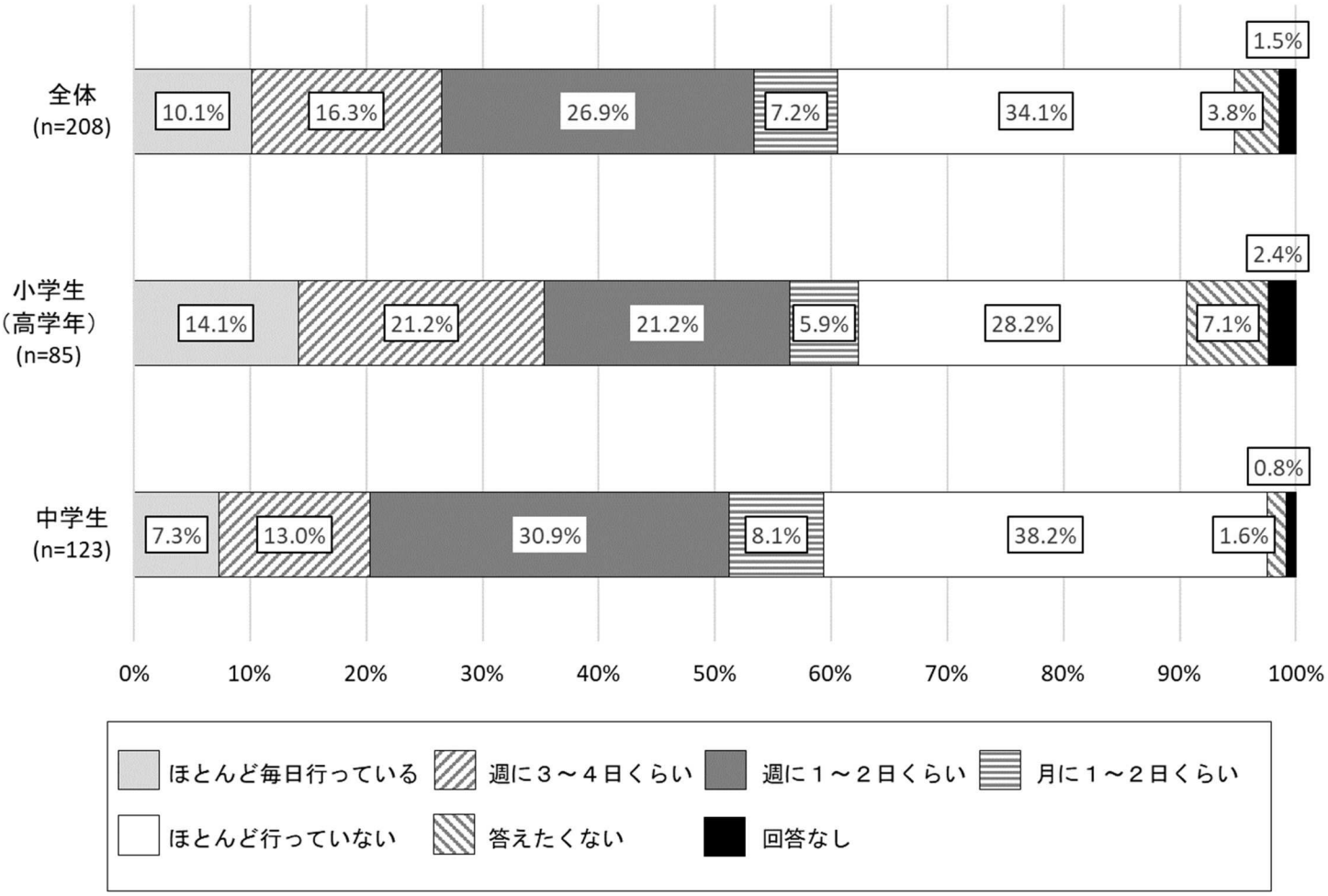
(n=245)

2.今学年の通学状況

問2 今年の4月から、どのくらい学校に行っていますか。(○はひとつだけ)

今学年で登校をした日数は、全体は、「ほとんど行っていない」が 34.1%で最も多く、次いで「週に1～2日くらい」が 26.9%となっています。

区分別にみても、小学生(高学年)・中学生ともに「ほとんど行っていない」が最も多くなっています。

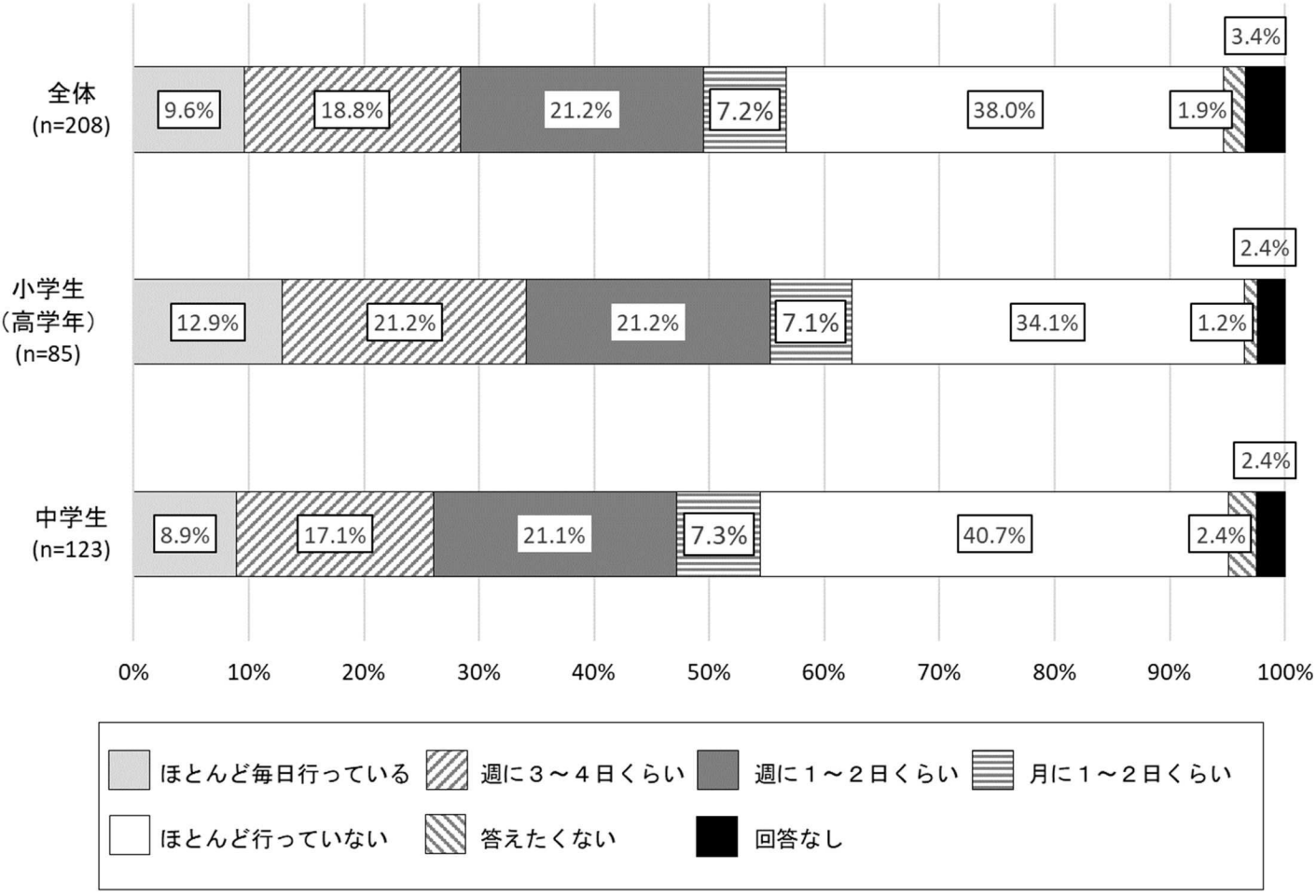


3.前学年の通学状況

問3 前の学年のとき、どのくらい学校に行きましたか。(○はひとつだけ)

前学年の通学状況については、全体は、「ほとんど行っていない」が 38.0%で最も多く、次いで「週に1～2日くらい」が 21.2%となっています。

区分別にみても、「ほとんど行っていない」が最も多くなっています。次いで、小学生(高学年)では「週に3～4日くらい」「週に1～2日くらい」がともに、21.2%となっています。中学生では「週に1～2日くらい」が次いで多くなっています。

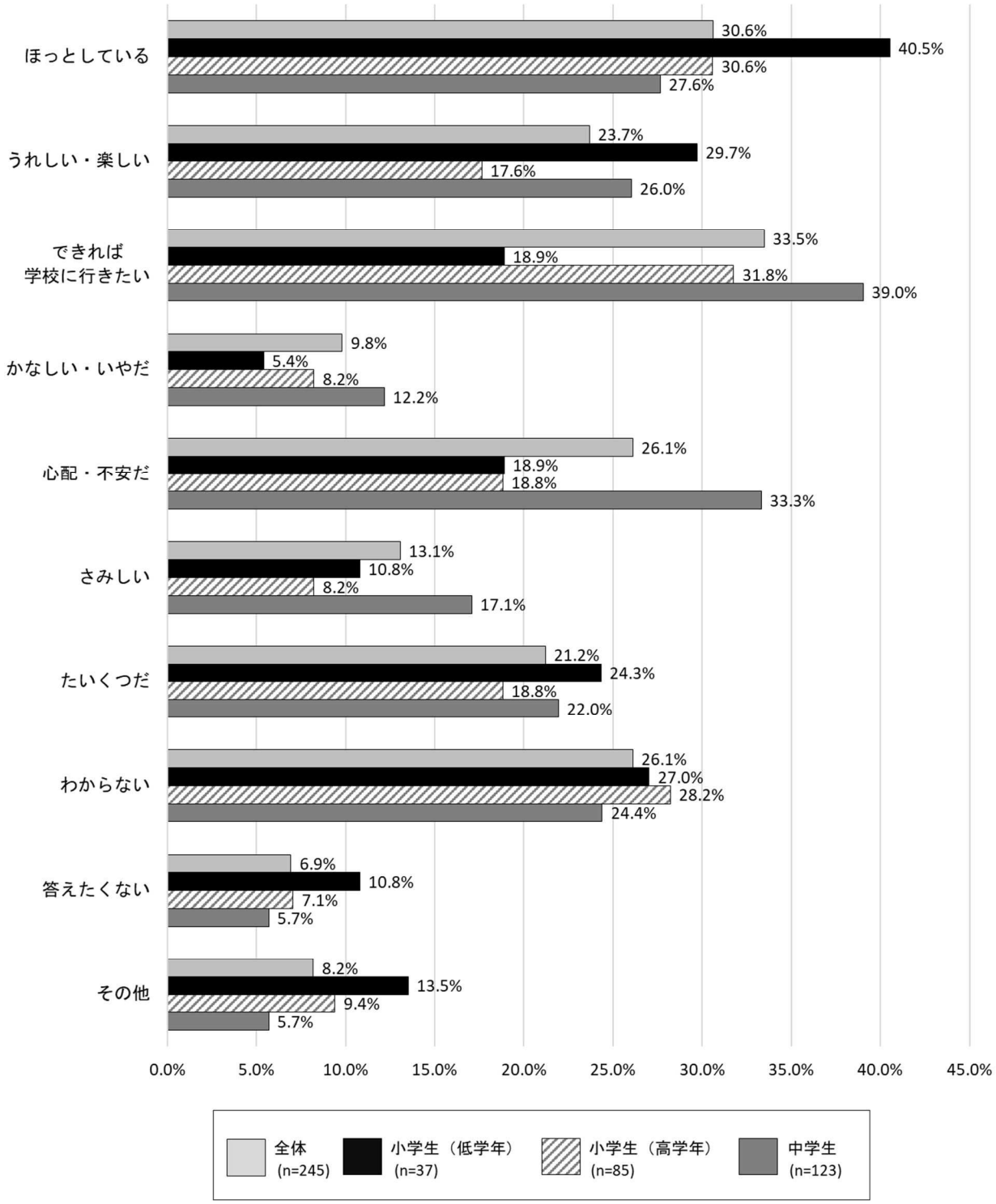


4.学校を休んでいる(いた)ときの気持ち

問4 学校を休んでいる(いた)ときの気持ちは、どれに近いですか。(○はいくつでも)

学校を休んでいる(いた)ときの気持ちについては、全体は、「できれば学校に行きたい」が 33.5%で最も多く、次いで「ほっとしている」が 30.6%となっています。

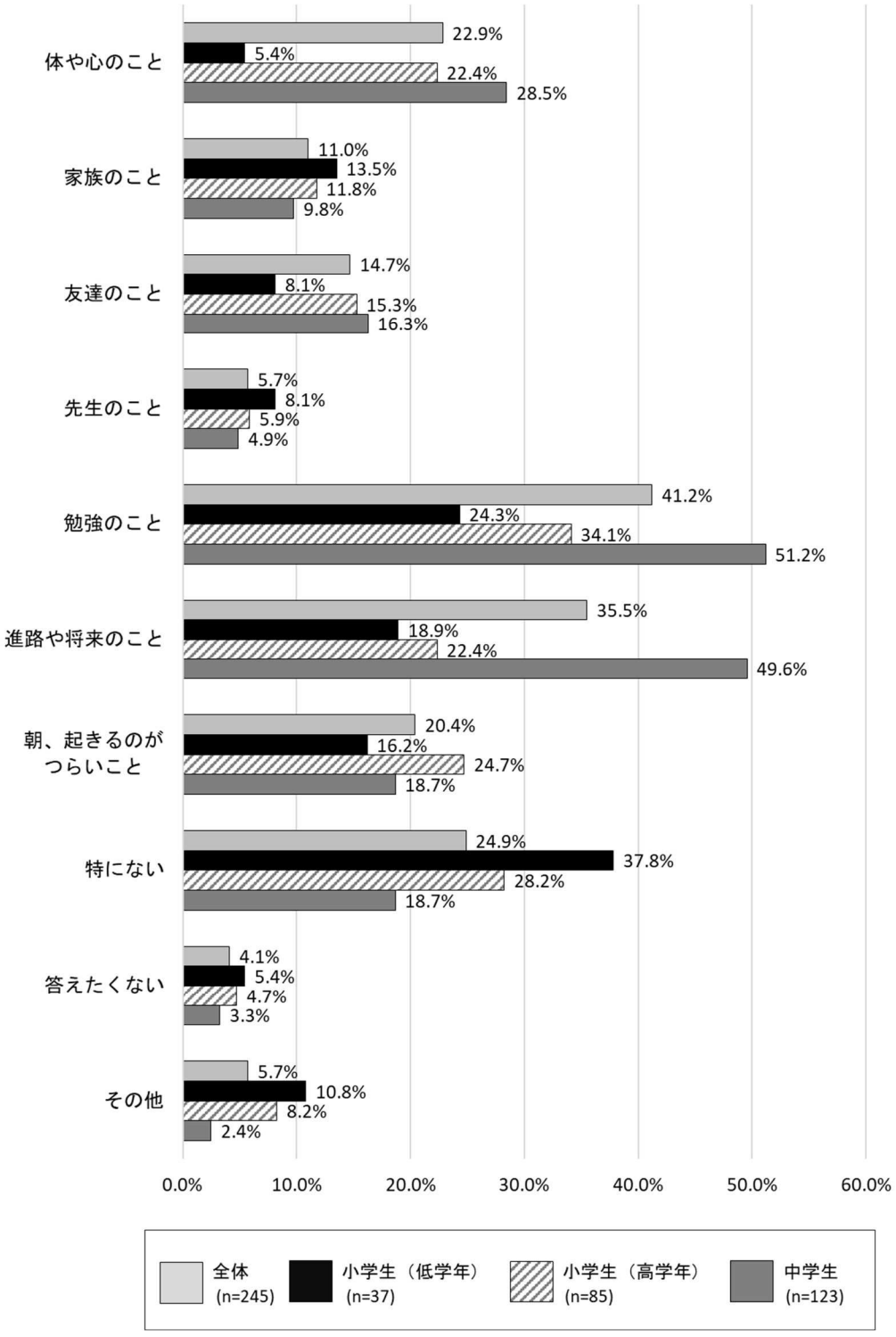
区分別にみると、小学生(低学年)では「ほっとしている」、小学生(高学年)・中学生では「できれば学校に行きたい」、が最も多くなっています。



5.今、困っていることや心配なこと

問5 今、困っていることや心配なことは、何ですか。(○はいくつでも)

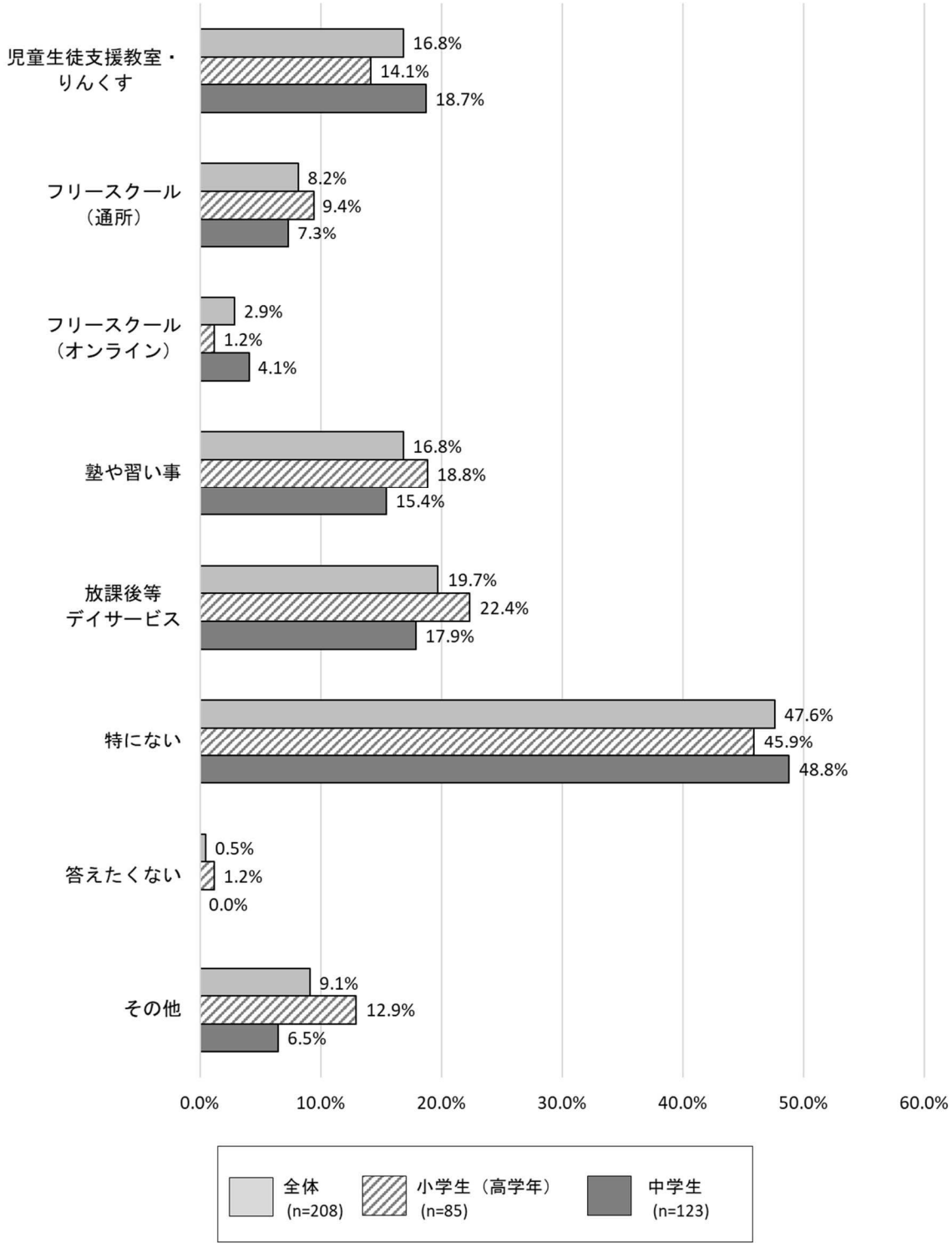
今、困っていることや心配なことについては、全体は、「勉強のこと」が 41.2%で最も多く、次いで「進路や将来のこと」が 35.5%となっています。区分別にみると、小学生(低学年)は「特にない」が最も多く、小学生(高学年)・中学生は「勉強のこと」が最も多くなっています。



6.学校を休んでいる(いた)ときに過ごしている(いた)場所

問6　学校を休んでいる(いた)ときに過ごしている(いた)場所(学校・家庭以外)があれば、教えてください。(○はいくつでも)

学校を休んでいる(いた)ときに過ごしている(いた)場所(学校・家庭以外)については、全体は、「特にない」が 47.6%で最も多く、「放課後等デイサービス」「児童生徒支援教室・りんくす」「塾や習い事」が続いています。



7.行ったことのある、フリースクールの名前

問7 フリースクールに行ったことがある場合は、その名前を教えてください。

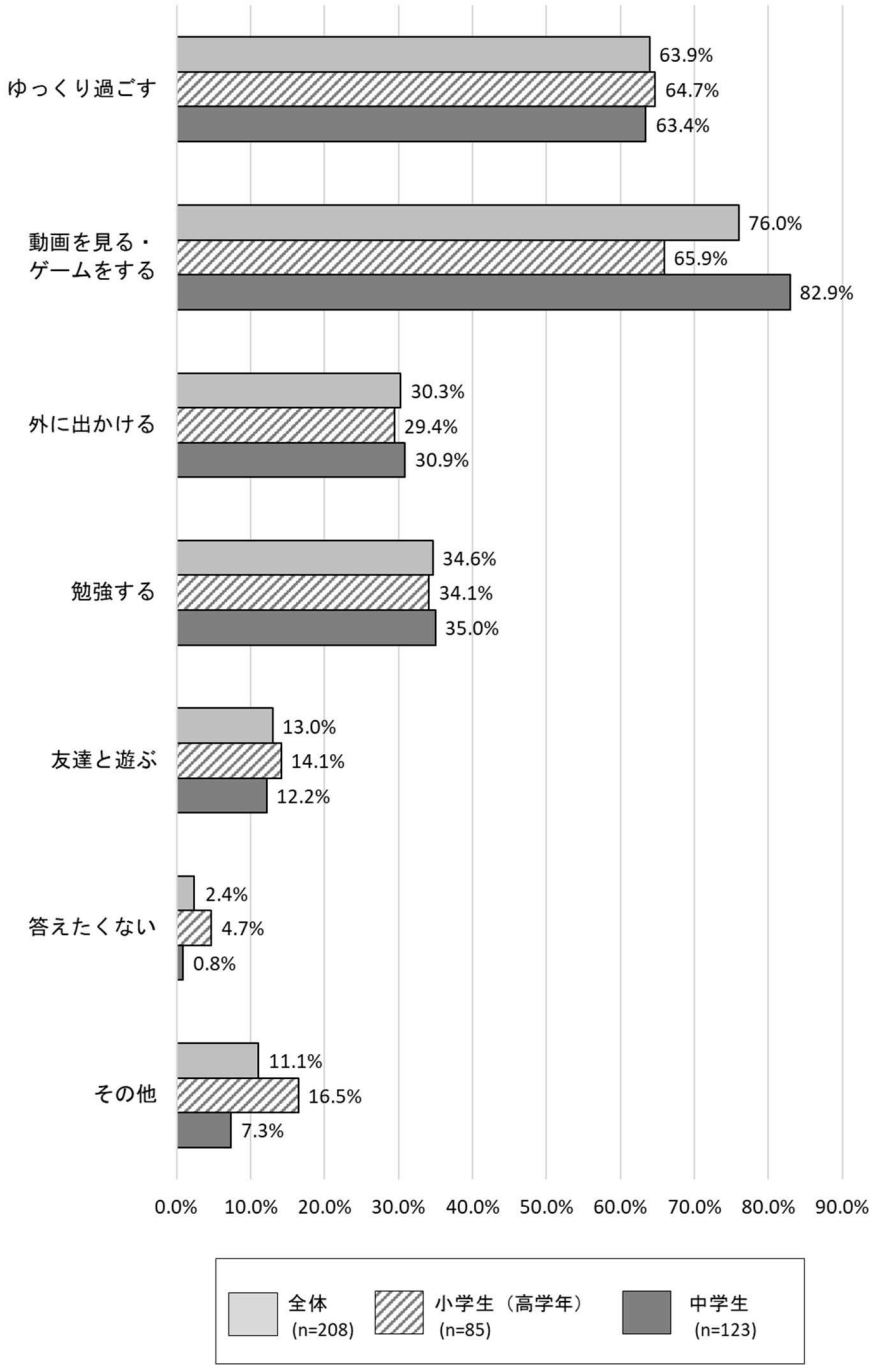
・NPO 法人あかね
・無花果フリースクール
・うえまつフリースクール
・NPO 法人ステップ
・SOZOW
・トライ式中等部岡山キャンパス
・NIJIN アカデミー
・フリースクールたね

8.学校を休んでいる(いた)ときの過ごし方

問8 学校を休んでいる(いた)とき、どのように過ごしています(した)か。
(○はいくつでも)

学校を休んでいる(いた)とき、どのように過ごしています(した)かについては、全体は、「動画を見る・ゲームをする」が 76.0%で最も多く、次いで「ゆっくり過ごす」が63.9%となっています。

区分別でも、「動画を見る・ゲームをする」が最も多く、次いで「ゆっくり過ごす」となっています。

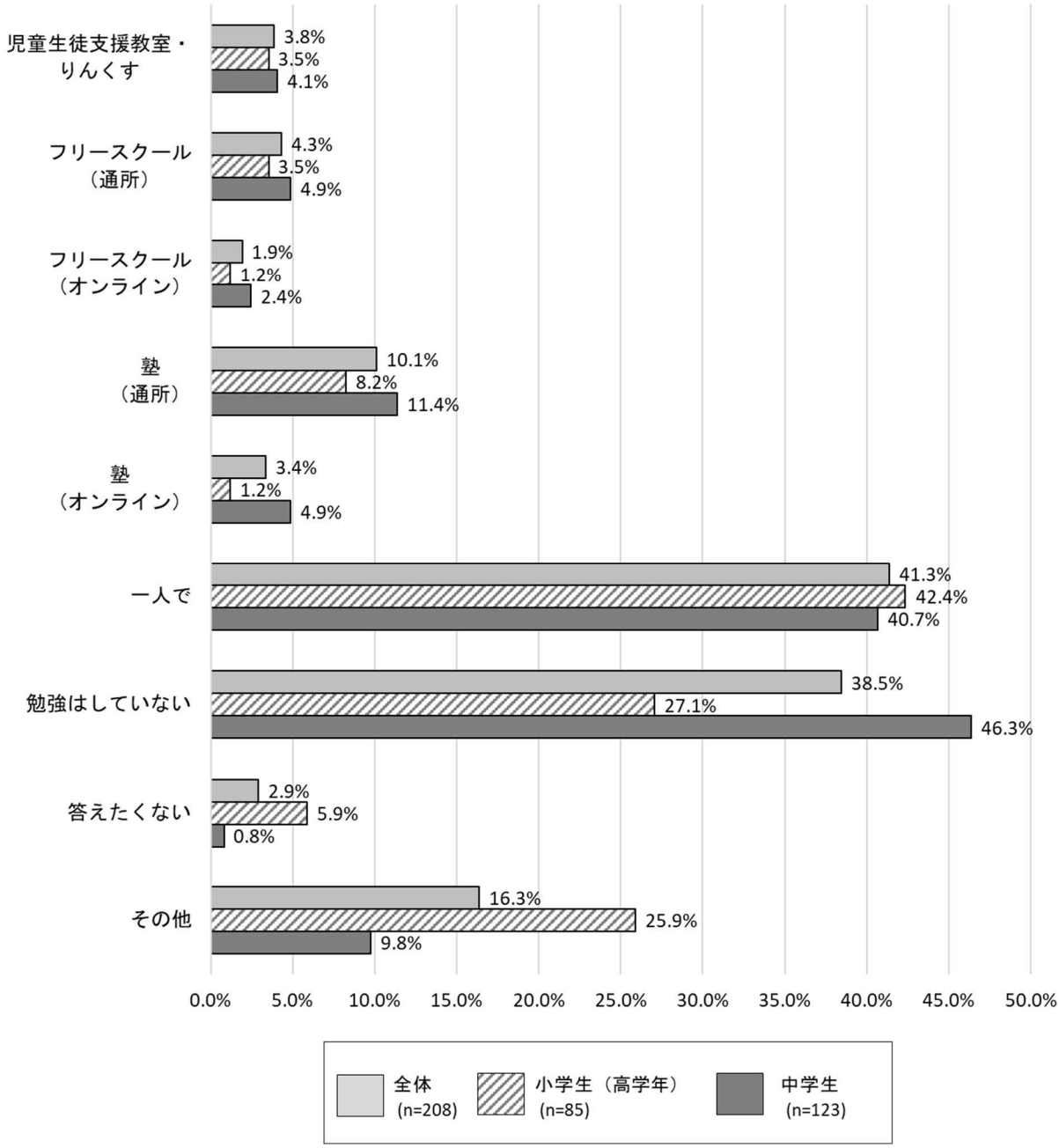


9.学校を休んでいる(いた)ときの勉強方法

問9 学校を休んでいる(いた)とき、どんな方法で勉強をしています(した)か。
(○はいくつでも)

学校を休んでいる(いた)とき、どんな方法で勉強をしています(した)かについては、全体は、「一人で」が 41.3%で最も多く、次いで「勉強はしていない」が 38.5%となっています。

区分別にみると、小学生(高学年)では「一人で」が最も多く、次いで「勉強はしていない」となっています。中学生では「勉強はしていない」が最も多く、次いで「一人で」となっています。

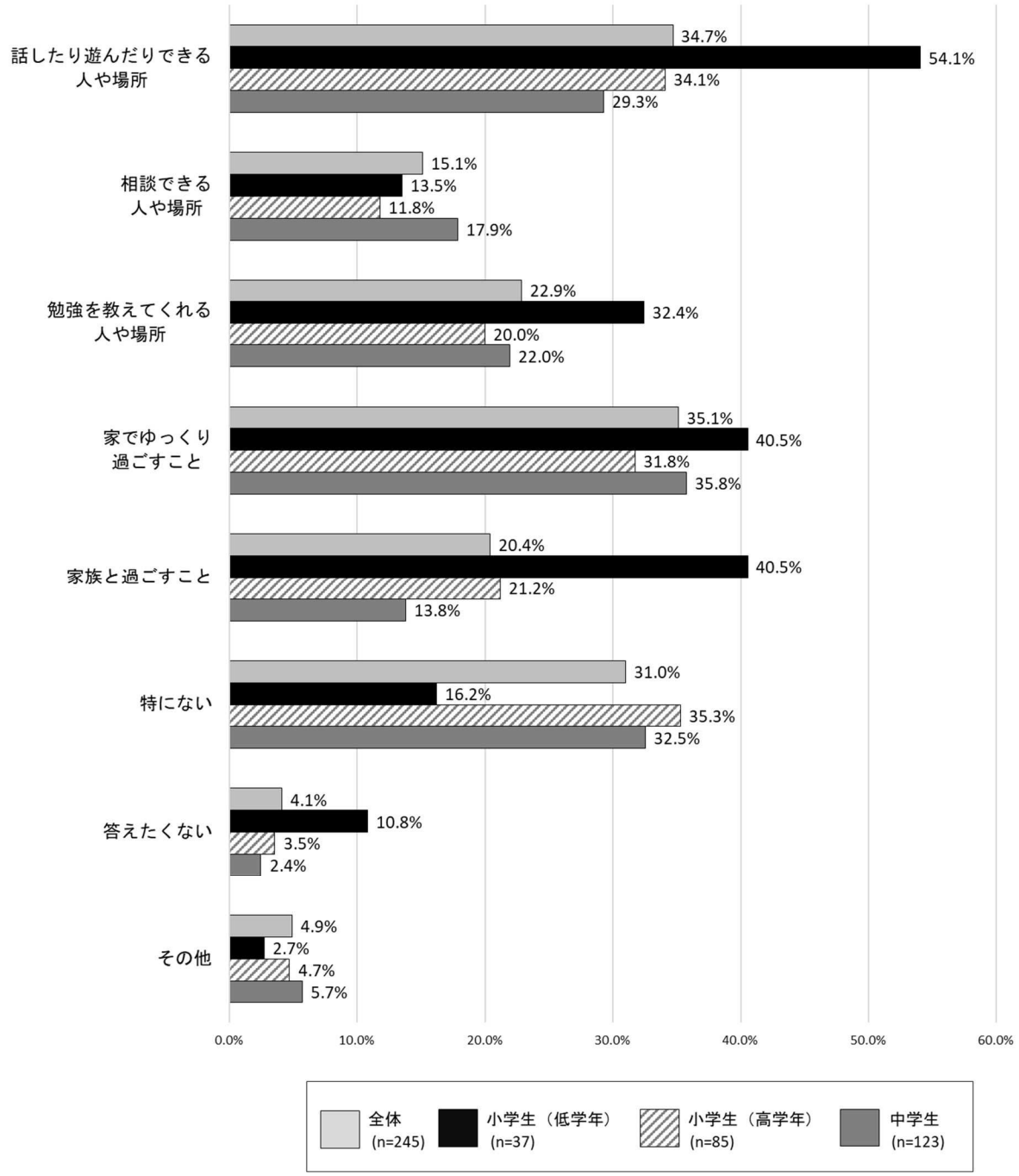


10.あったらいいと思う支援

問 10 どんなこと(支援)があったらいいと思いますか。(○はいくつでも)

どんなこと(支援)があったらいいと思いますかについては、全体は、「家でゆっくり過ごすこと」が 35.1%で最も多く、次いで「話したり遊んだりできる人や場所」が 34.7%となっています。

区分別にみると、小学生(低学年)では「話したり遊んだりできる人や場所」が最も多くなっています。小学生(高学年)では「特にない」が最も多くなっています。中学生は「家でゆっくり過ごすこと」が最も多くなっています。



11.自由記述

問 11 その他、知ってほしいことや聞いてほしいことがあれば、なんでも自由に記入してください。

主な意見を掲載しています。個人情報が含まれる部分や、明らかな誤字・脱字については、プライバシー保護や読みやすさを考慮して、修正・削除などの調整を行っています。また、文章の長さやつながりの都合上、趣旨が変わらない範囲で一部を省略・要約して掲載している箇所があります。

周りの理解について

・不登校＝甘えが全てだと思ってほしくない。行きたくても行けない人がいることを知っている人が増えてほしい。先生方が過剰に反応するのを減らしてほしい。不登校生に対して詮索を控えてほしい。

・だらしないだけかはわからないが、朝起きられない。

・普通に接してほしい。

・無理に、人と話す機会をつくらないでほしい。

・不登校になった理由が分からなくて、休んでももっと辛くなって、何が正解か分からない。もっと相談できる場所があれば良かったと思う。

先生について

・先生が怖い。

・５年生のときの先生がすごく理不尽だった。

・もう少し学校の先生に理解してほしい。学校に行ってないから友達の様子がわかりにくい。クロムブックが家にあってもオンラインでつながる事もないし、出席扱いにならないことがさみしい。

勉強について

・家庭教師だったら勉強ができる。値段が高いのでボランティアで来てほしい。

・受験（勉強）が不安。勉強できない。

友人について

・友達に悪口を言われるのがいやだ。

・気軽に何でも相談できる友達がほしい。１人のとき落ちつかないことがある。

環境について

・学校の中はざわざわしていて辛い。

・日常との少しの違いが嫌で、友達や人が4人以上いると気持ち悪くなる。

フリースクールについて

・フリースクールについてもっと情報がほしい。

・オンラインスクールでやっと居場所を見つけた。友達ができたり、勉強ができたりするのでとても楽しい。

その他

・学校を休んでいるときに過ごす場所の児童生徒支援教室に行くか迷っている。

・同じことばかりするのがいや。自分でしたい。

・どこから踏み出せばいいのかネガティブに捉えすぎているからこそ、自分がつらくなっている。

・将来ちゃんとやっていけるか毎日不安になる。なぜか分からないけど、プレッシャーを感じてしまう。

・出席しないと評価がない。そして ICT 活用の出席扱い制度も対応できないと言われる。学校の対応に不信感しかない。

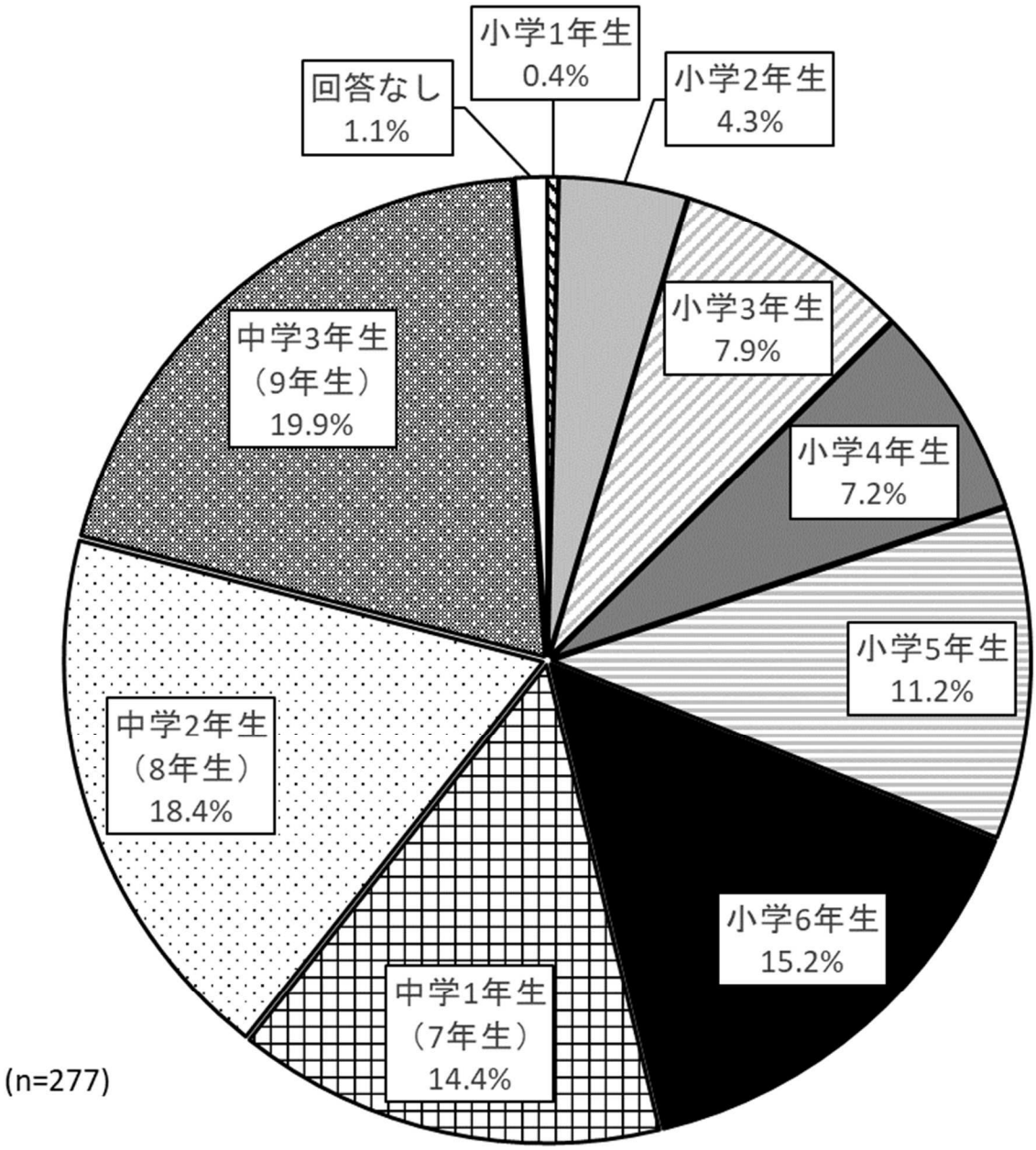
・登校時間を 10 時頃にしてほしい。

Ⅲ 調査結果〔保護者〕

1.こどもの学年

問1 お子さまは何年生ですか。(当てはまるもの一つに○)

こどもの学年は「中学3年生(9年生)」が 19.9%と最も多く、次いで「中学2年生(8年生)」が 18.4%となっています。



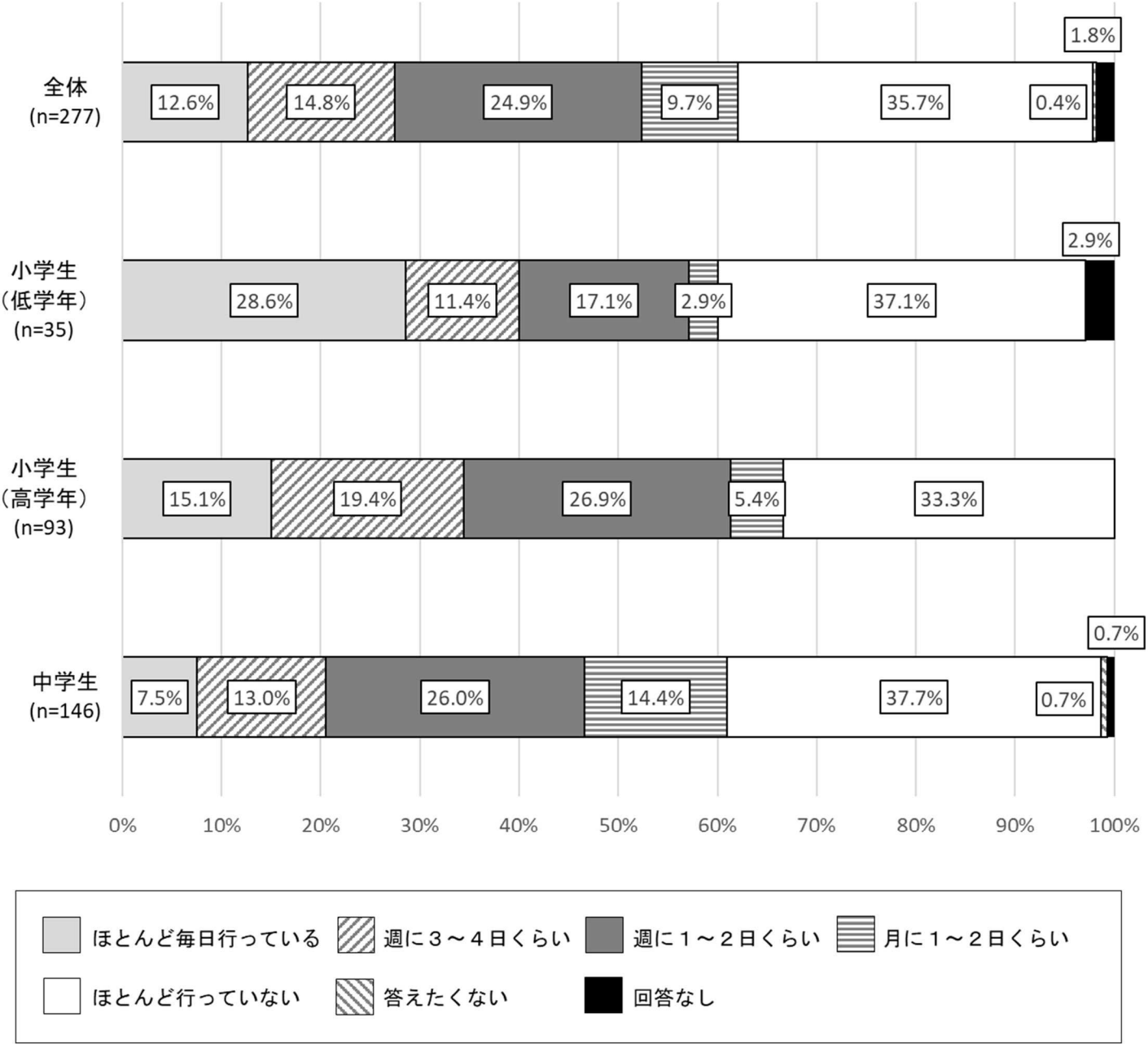
(n=277)

2.今年度の登校状況

問2 お子さまは、今年の4月から、どのくらい学校に行っていますか。
（当てはまるもの一つに○）

今学年で登校をした日数は、全体は、「ほとんど行っていない」が 35.7%で最も多く、次いで「週に1～2日くらい」が 24.9%となっています。

区分別にみても、小学生・中学生ともに「ほとんど行っていない」が最も多くなっています。

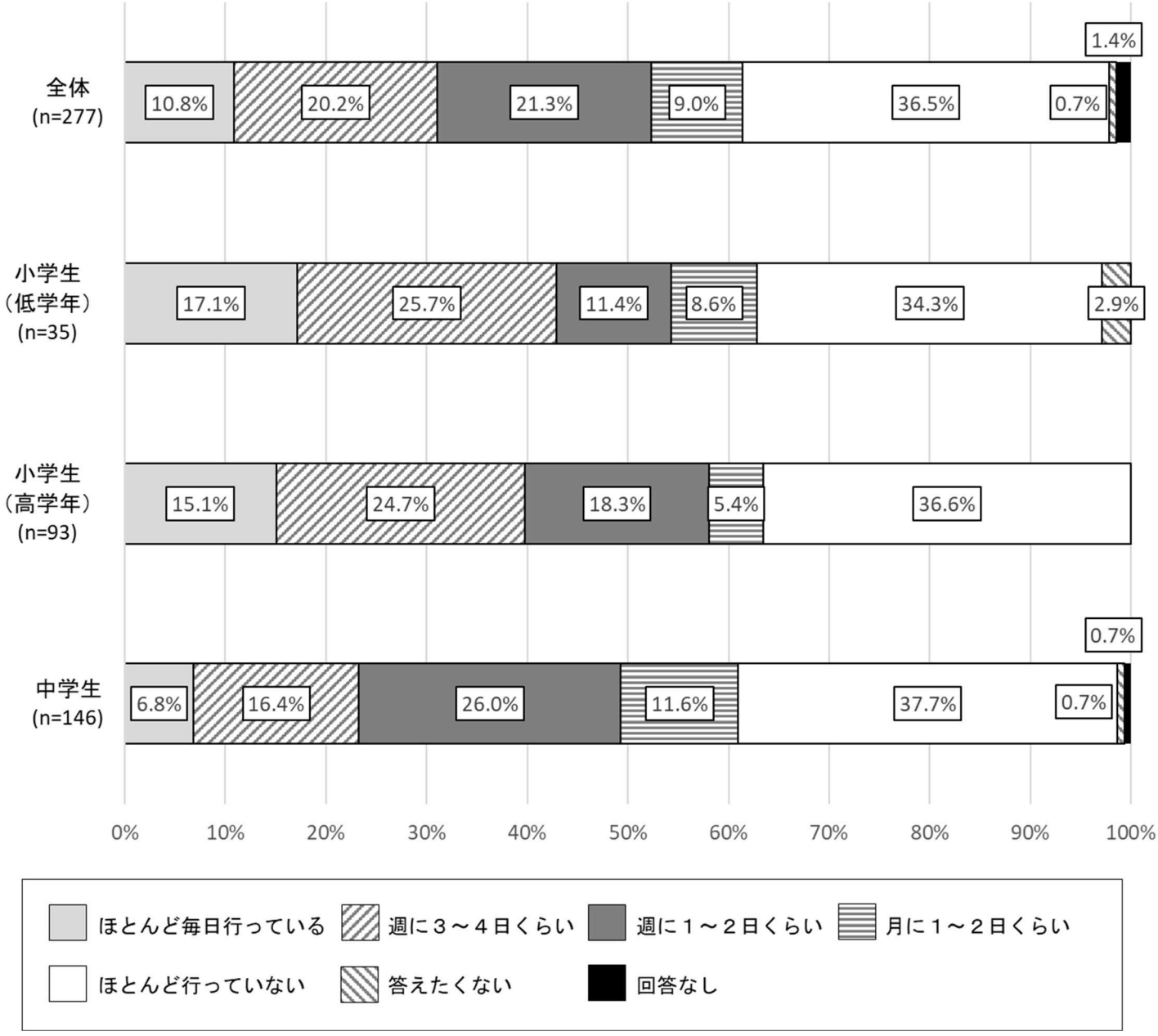


3.前年度の登校状況

問3 前の学年のとき、どのくらい学校に行きましたか。(当てはまるもの一つに○)

前の学年で登校をした日数は、全体は、「ほとんど行っていない」が 36.5%で最も多く、次いで「週に1～2日くらい」が 21.3%となっています。

区分別にみても、小学生・中学生ともに「ほとんど行っていない」が最も多くなっています。

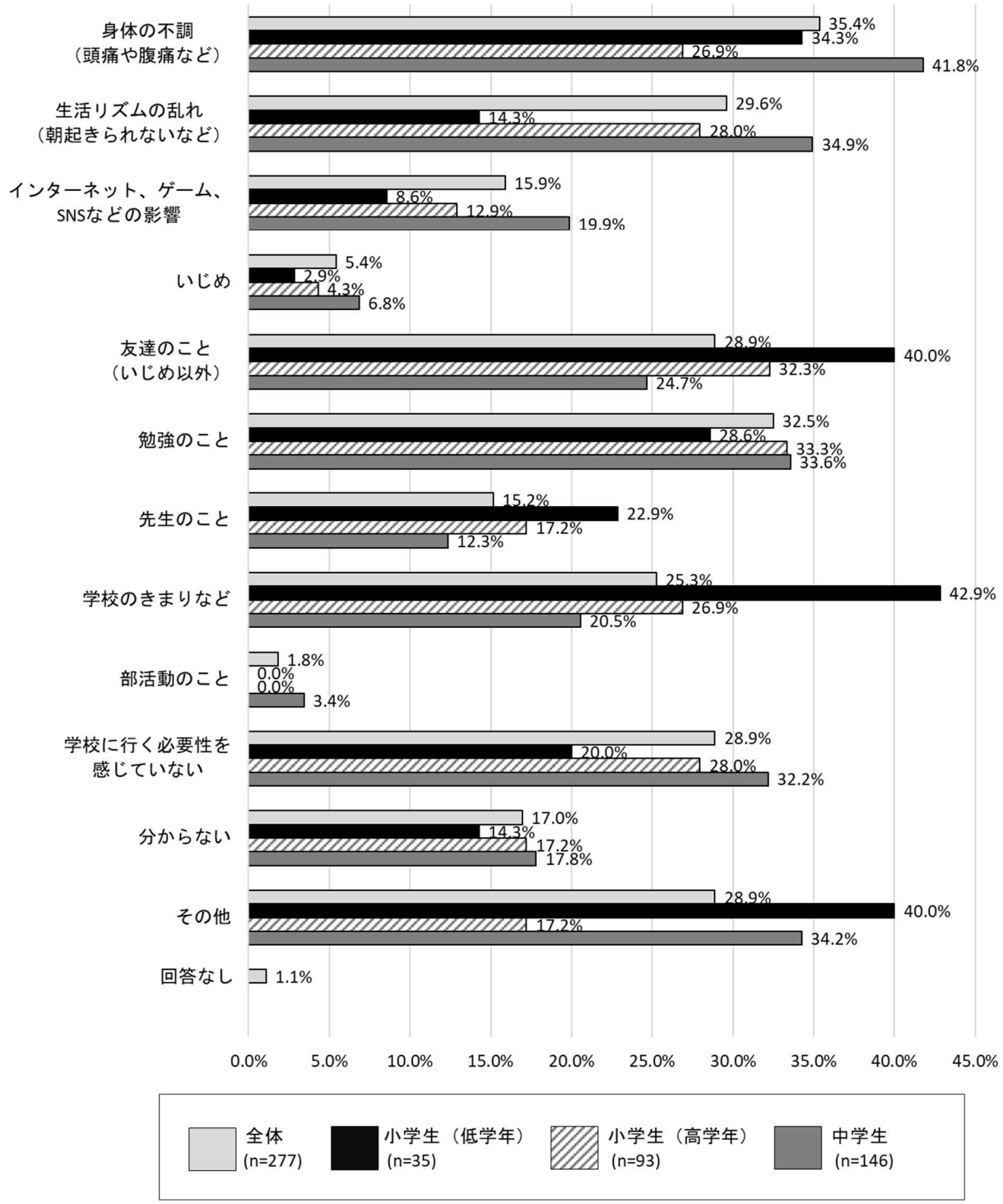


4.学校を休む理由

問4 お子さまが学校を休む理由は、何だと思いますか。(当てはまるものすべてに○)

学校を休む理由については、全体では「身体の不調(頭痛や腹痛など)が 35.4%で最も多く、次いで「勉強のこと」が 32.5%となっています。

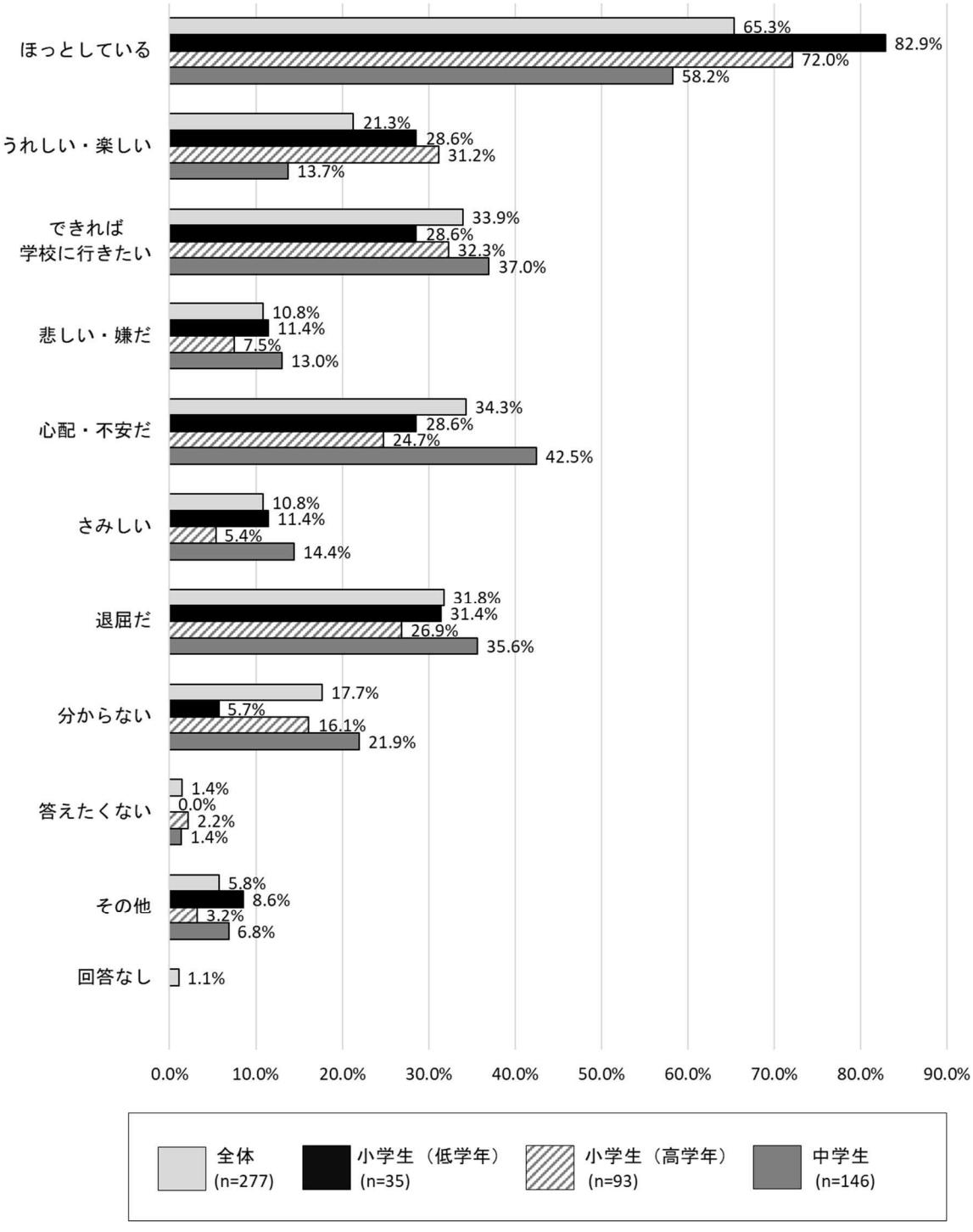
区分別では小学生(低学年)は「学校のきまりなど」、小学生(高学年)は「勉強のこと」、中学生は「身体の不調(頭痛や腹痛など)」が最も多くなっています。



5.学校を休んでいる(いた)ときの気持ち

問5　学校を休んでいる(いた)ときのお子さまの気持ちは、どれに近いように感じますか。(当てはまるものすべてに○)

学校を休んでいる(いた)ときの気持ちについては、全体、区分別ともに「ほっとしている」が最も多く、半数以上を占めています。次いで、小学生(低学年)では「退屈だ」、小学生(高学年)では「できれば学校に行きたい」、中学生では「心配・不安だ」となっています。

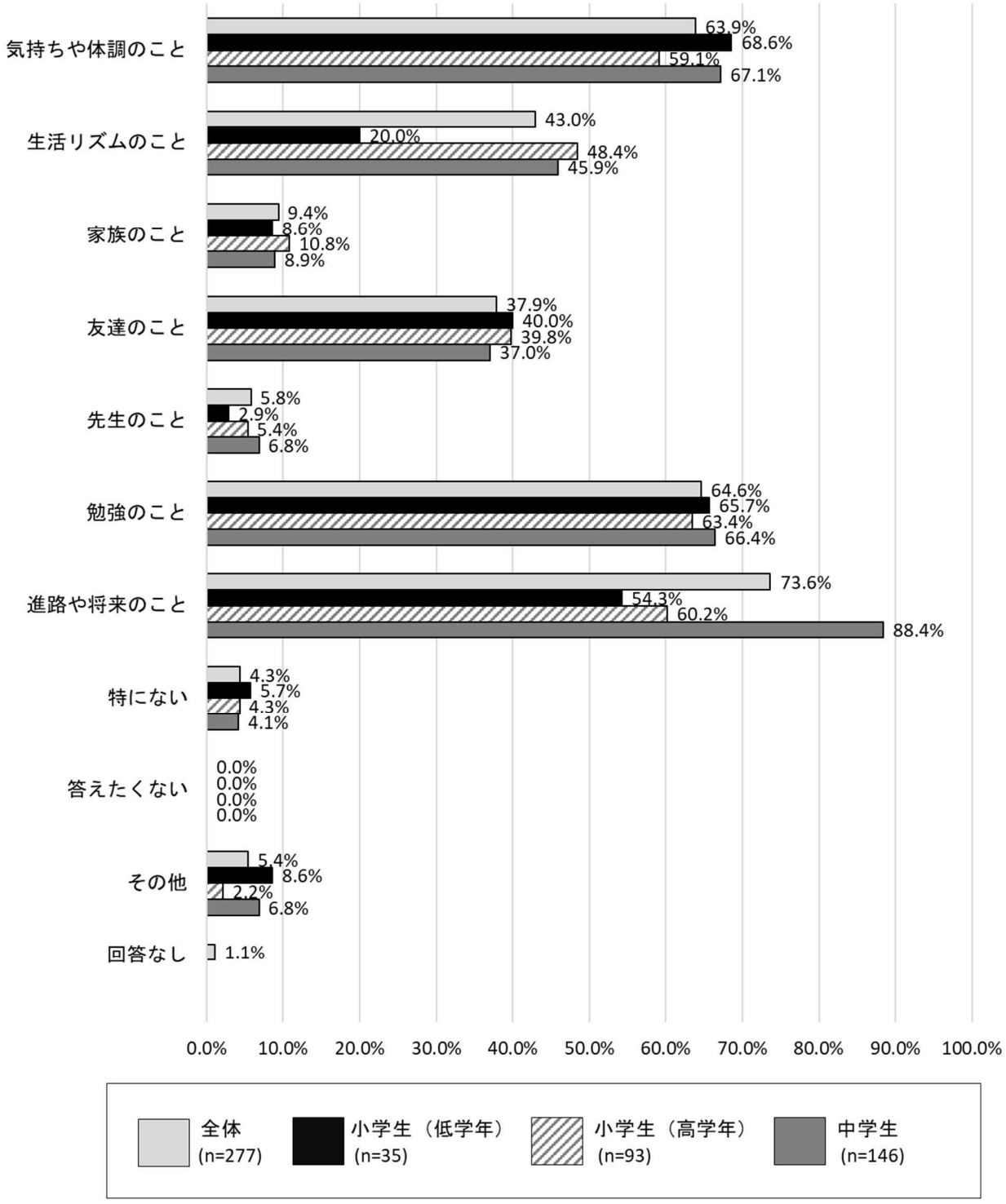


6.こどもに関する心配ごと

問6 今、お子さまのことで心配なことはどんなことですか。(当てはまるものすべてに○)

全体では「進路や将来のこと」が 73.6%で最も多く、次いで「勉強のこと」が 64.6%となっています。

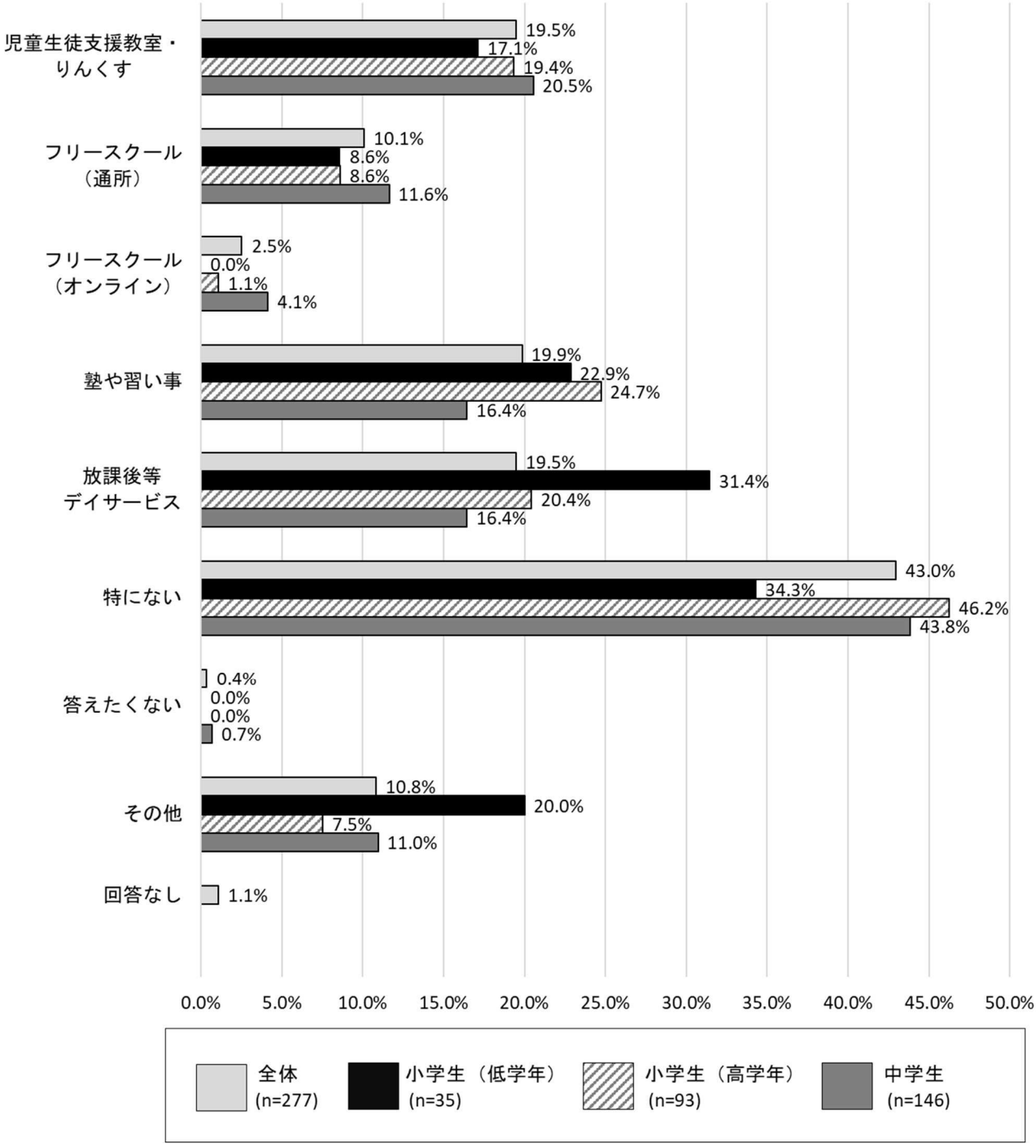
区分別にみると、小学生(低学年)は「気持ちや体調のこと」、小学生(高学年)は「勉強のこと」、中学生は「進路や将来のこと」が最も多くなっています。



7.学校を休んでいるときにこどもが過ごしている(いた)場所

問7　学校を休んでいる(いた)ときにお子さまが過ごしている(いた)場所(学校・家庭以外)があれば、教えてください。(当てはまるものすべてに○)

全体、区分別ともに「特にない」が最も多くなっています。次いで小学生(低学年)では「放課後等デイサービス」、小学生(高学年)では「塾や習い事」、中学生では「児童生徒支援教室・りんくす」となっています。

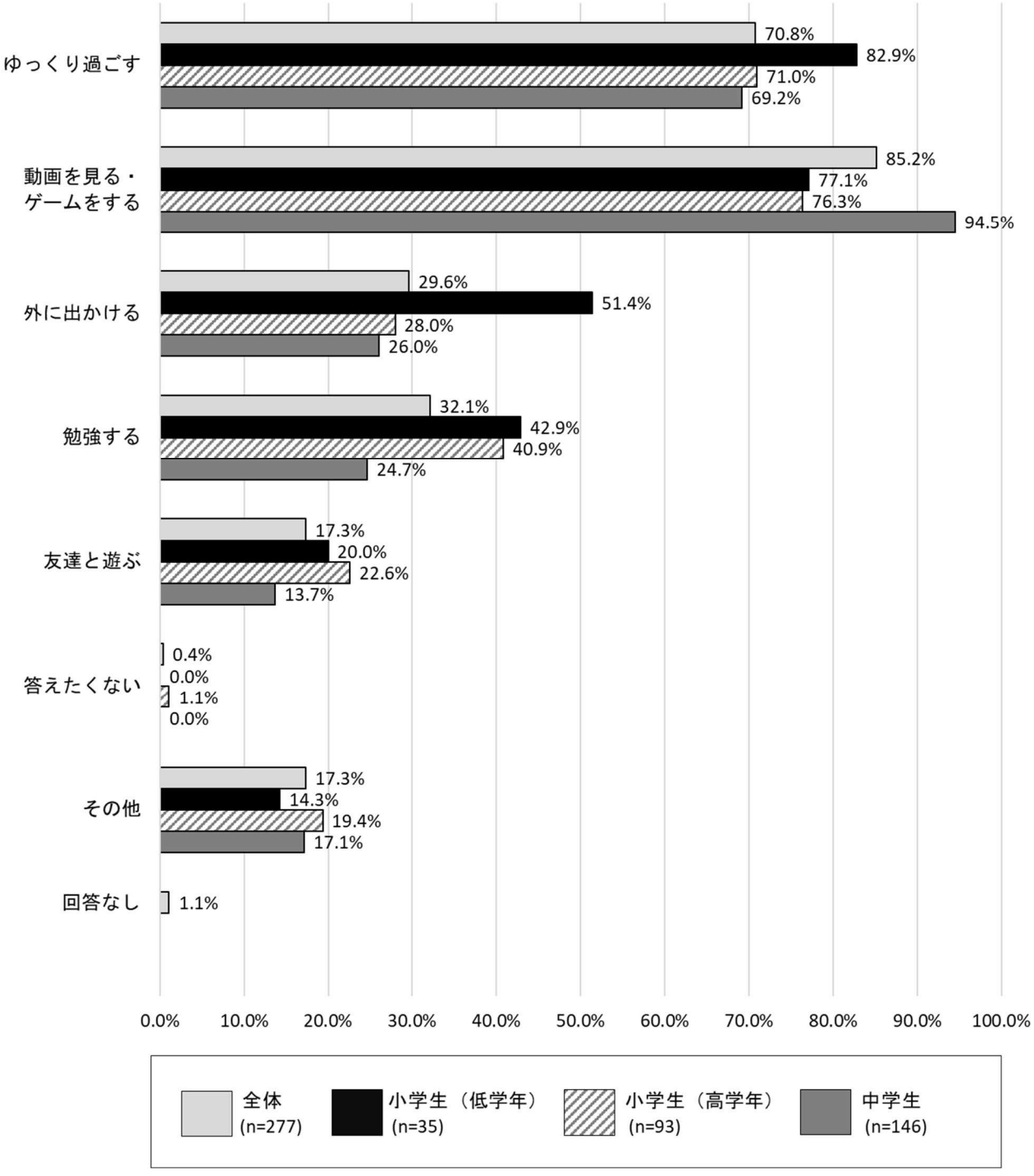


8.学校を休んでいる(いた)ときの過ごし方

問8　お子さまは、学校を休んでいる(いた)とき、どのように過ごしています(した)か。
（当てはまるものすべてに○）

全体では「動画を見る・ゲームをする」が最も多く、次いで「ゆっくり過ごす」となっています。

区分別でも「ゆっくり過ごす」「動画を見る・ゲームをする」が半数以上となっています。特に「中学生」では9割以上が「動画を見る・ゲームをする」となっています。

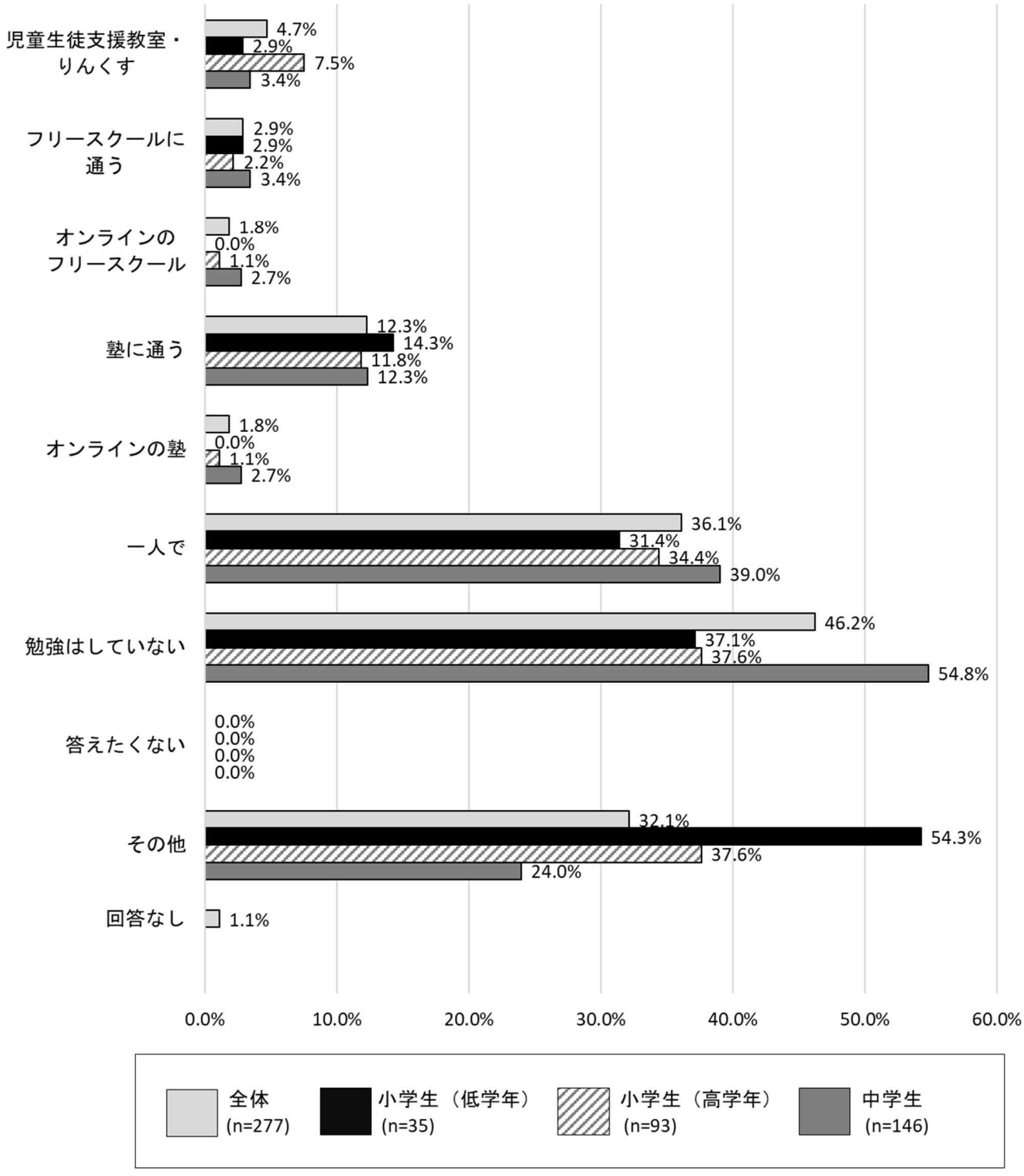


9.学校を休んでいる(いた)時の勉強方法

問9　お子さまは、学校を休んでいる(いた)とき、どんな方法で勉強をしています(した)か。(当てまるものすべてに○)

全体では「勉強はしていない」が 46.2%で最も多く、次いで「一人で」となっています。

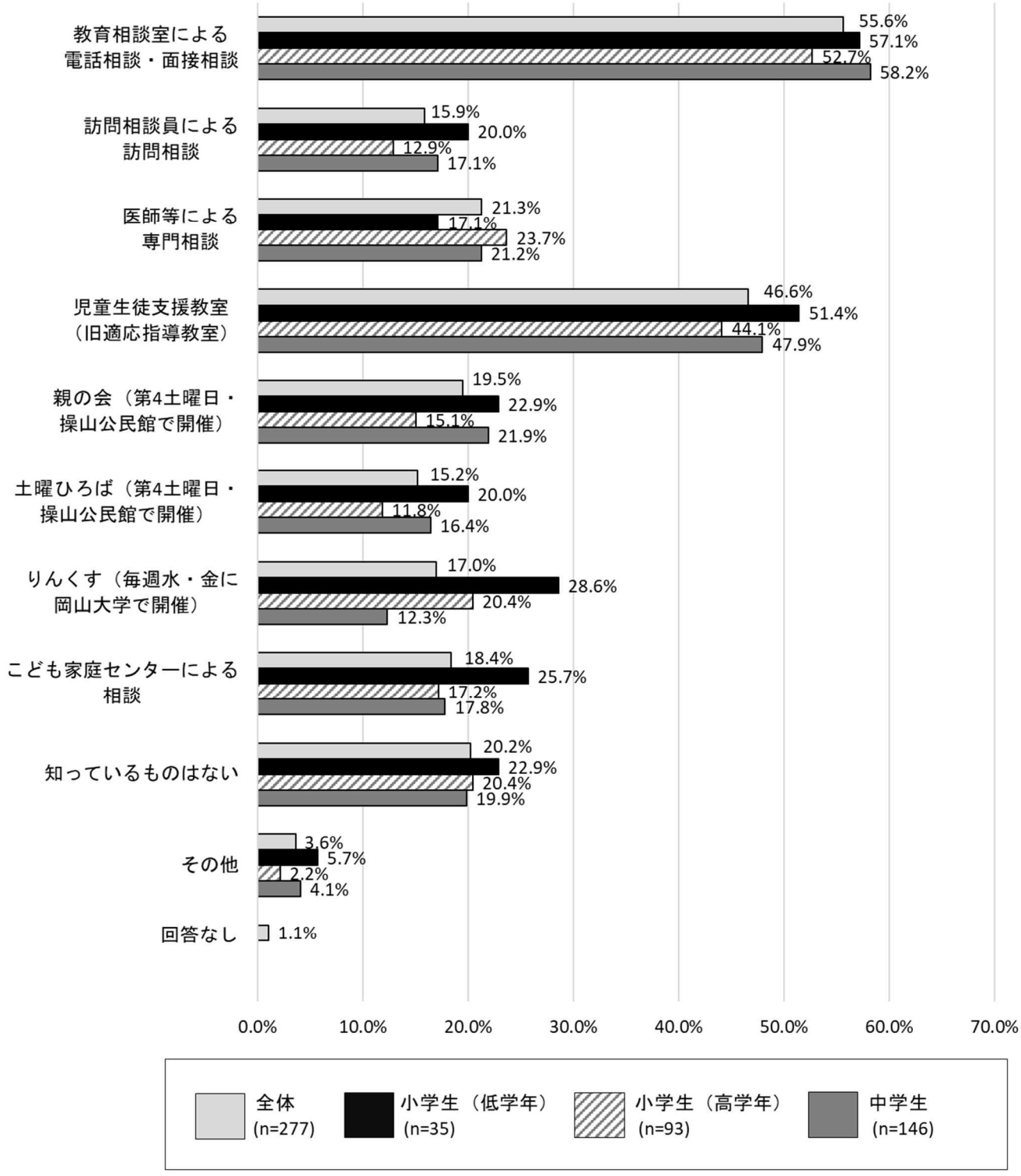
区分別では小学生(低学年)が「その他」、小学生(高学年)が「勉強はしていない」「その他」、中学生では「勉強はしていない」が最も多くなっています。



10.知っている支援

問10　岡山市が学校外で行う支援のうち知っているものを教えてください。
（当てはまるものすべてに○）

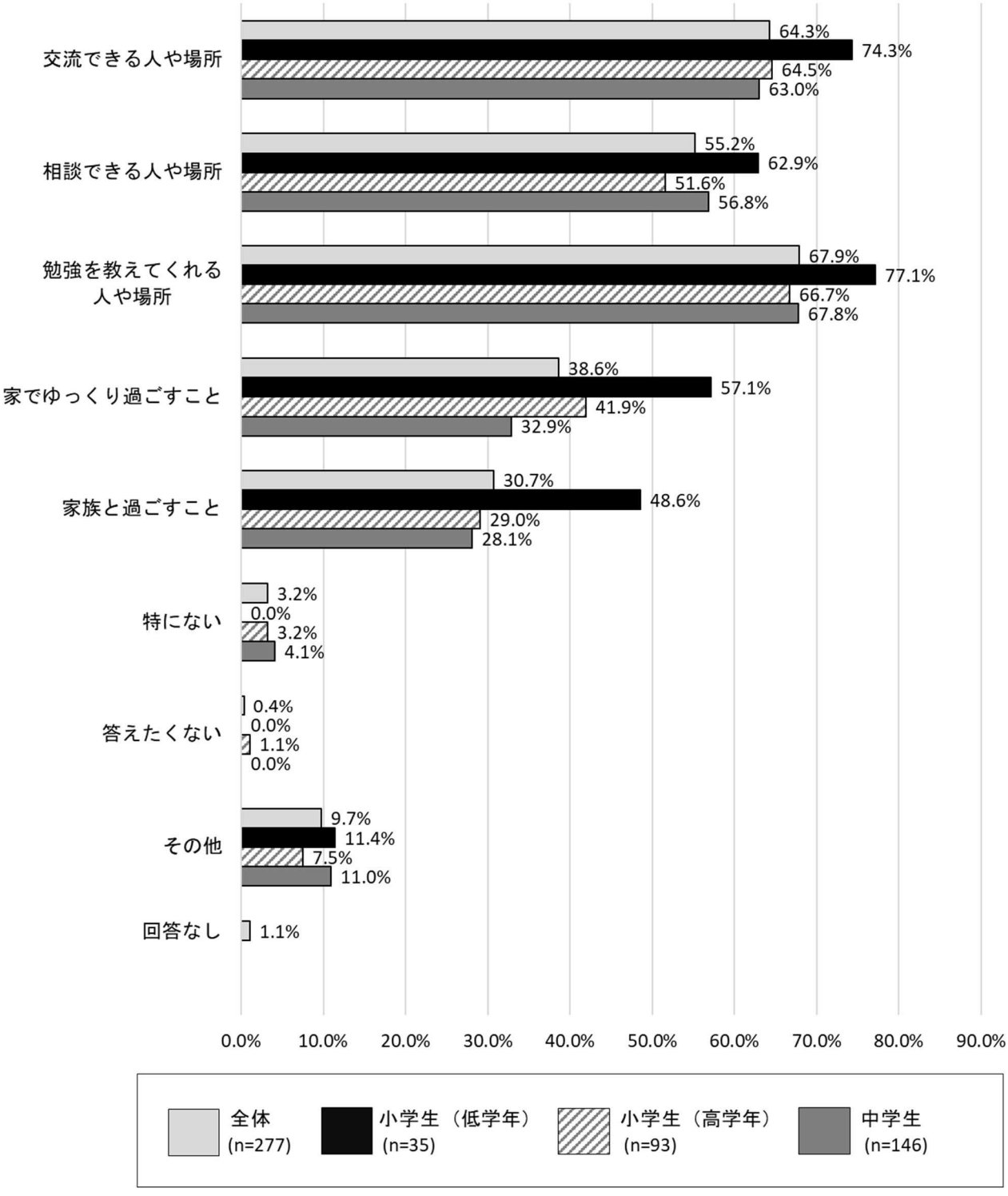
全体・区分別ともに「教育相談室による電話相談・面接相談」が最も多く、次いで「児童生徒支援教室（旧適応指導教室）」となっています。



11.あればいいと思うこと

問11　お子さまにとってあればいいと思うことを教えてください。
（当てはまるものすべてに○）

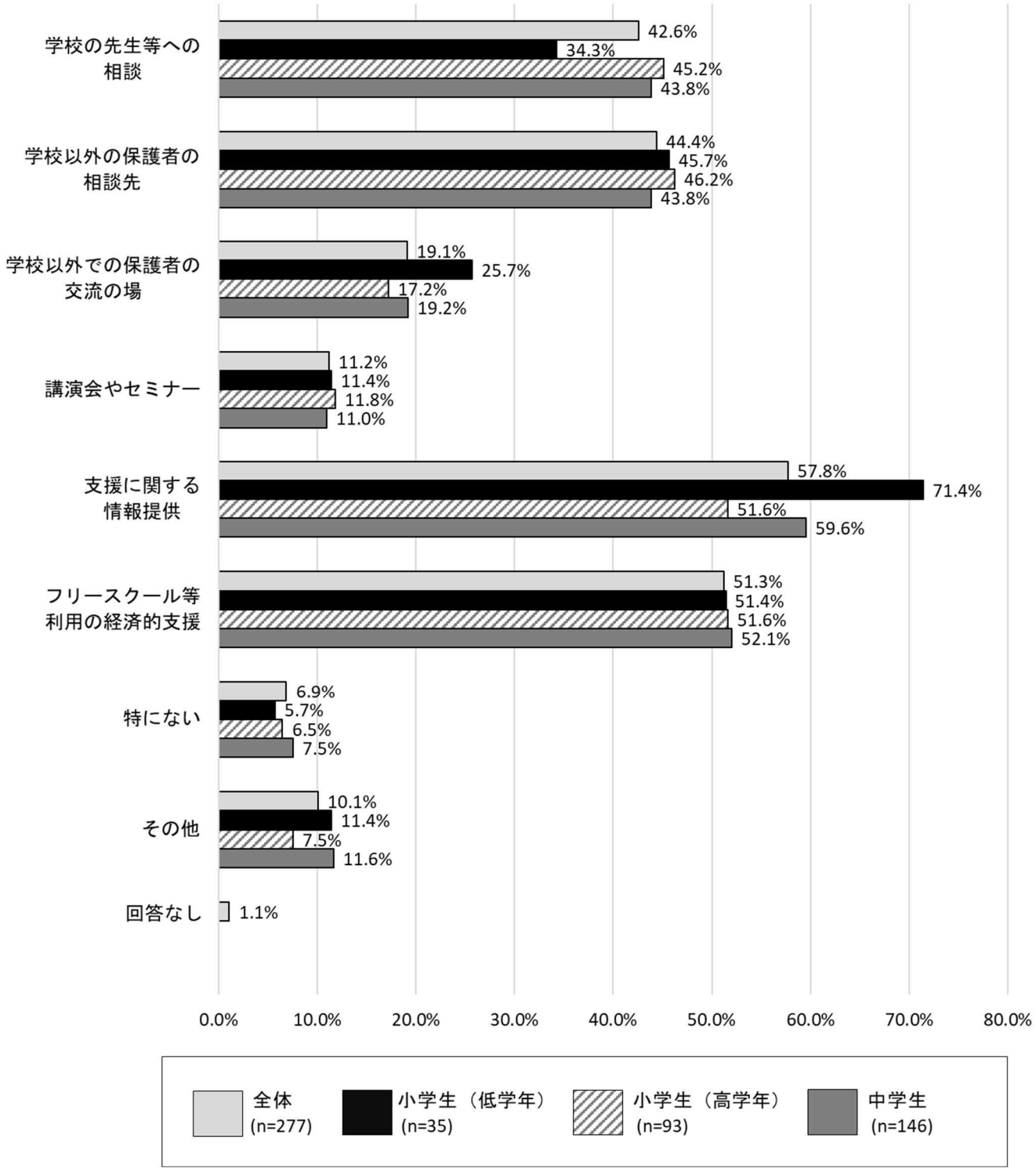
全体・区分別ともに「勉強を教えてくれる人や場所」が最も多く、次いで「交流できる人や場所」となっています。



12.保護者のサポートとして、期待するもの

問12　保護者の方のサポートとして、期待するものを教えてください。
（当てはまるものすべてに○）

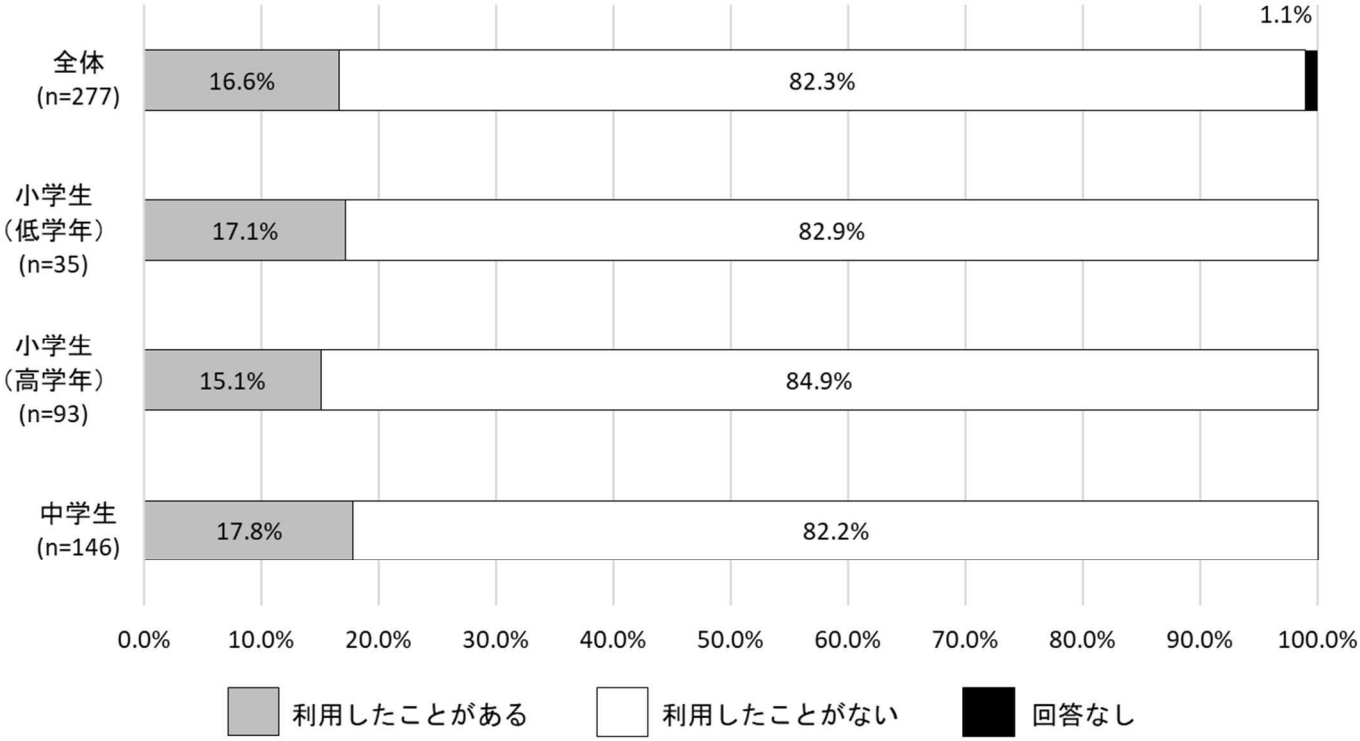
全体・区分別ともに「支援に関する情報提供」が最も多く、次いで「フリースクール等利用の経済的支援」となっています。



13.フリースクール等の民間施設の利用

※フリースクール等の民間施設を利用したことがある場合は⑬に、ない場合は⑲にお進みください。
問13　⑬フリースクール等の民間施設を利用したことがある場合、その名称などを教えてください。

全体では「利用したことがある」は 16.6%となっています。
区分別でも「利用したことがある」は2割未満となっています。



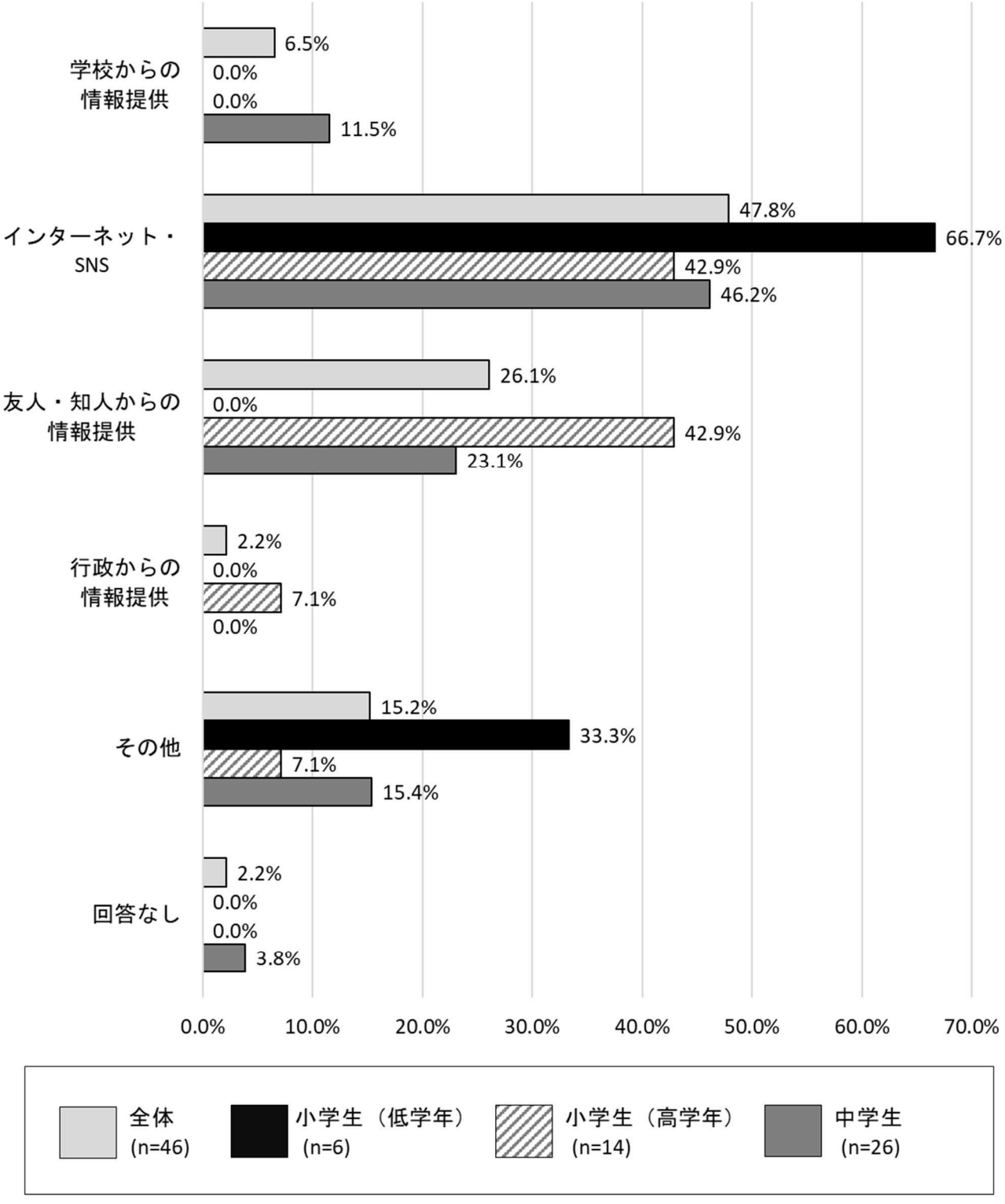
利用したことがあるフリースクール等の名称

・トライ式学院中等部
・プロリハ
・うえまつフリースクール
・NIJIN アカデミー
・よるとこ
・不登校支援 NPO 法人ステップ
・IPU
・無花果もえぎフリースクール
・フリースクールもえぎ
・MELLOW ホーム
・フリースクール志塾
・あかね
・フリースペースエル
・ハニードロップス
・ミカタナ
・サムエル国際キリスト教学園
・NPO 法人ステップ
・フリースクールたね

14.利用したきっかけ

問14　フリースクール等の民間施設を利用したことがある場合、利用したきっかけを教えてください。（当てはまるもの一つに○）

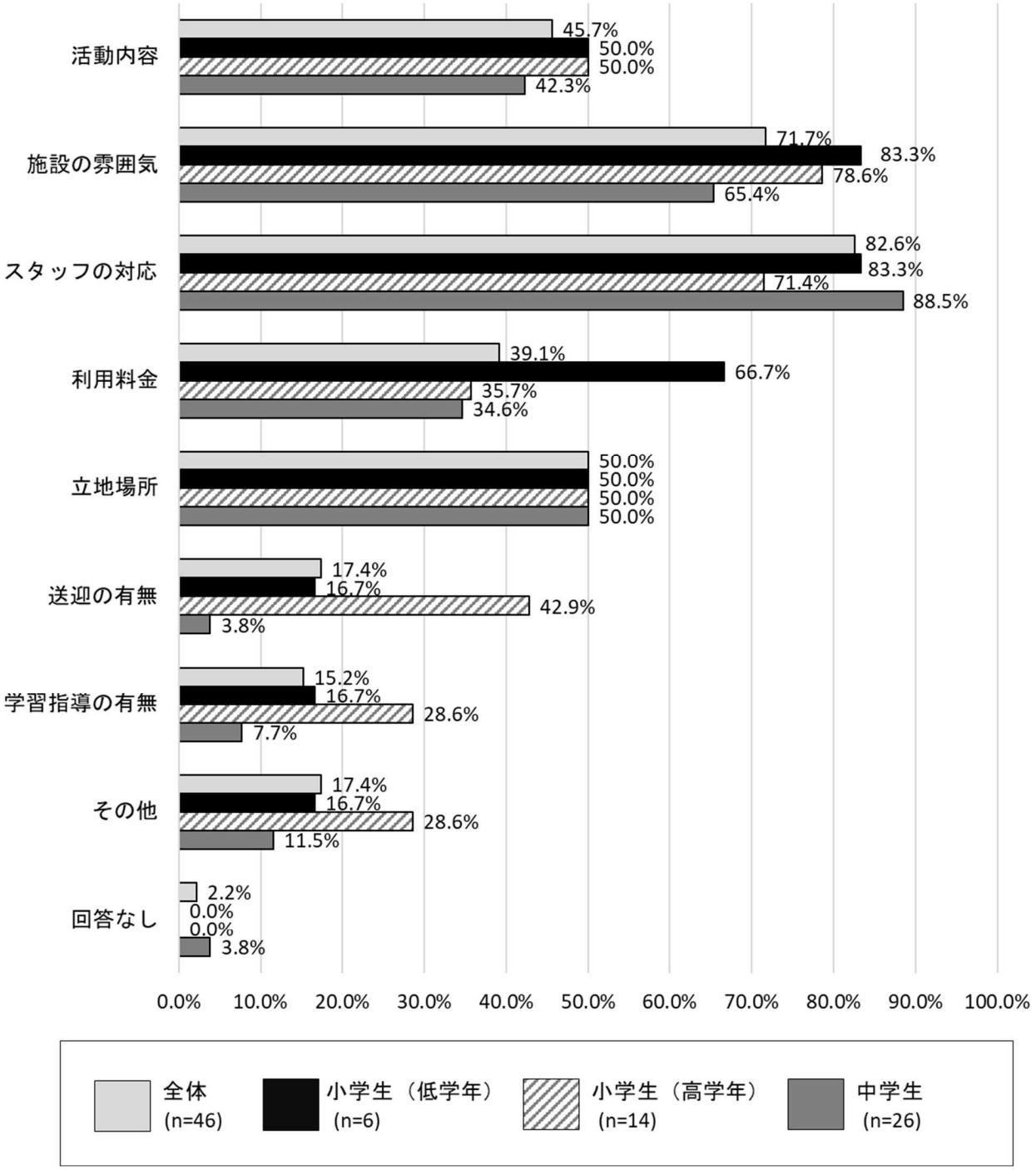
全体・区分別ともに「インターネット・SNS」が最も多く、次いで小学生（低学年）では「その他」、小学生（高学年）・中学生では「友人・知人からの情報提供」となっています。



15.重視したこと

問15　フリースクール等の民間施設を利用したことがある場合、重視したことを教えてください。（当てはまるものすべてに〇）

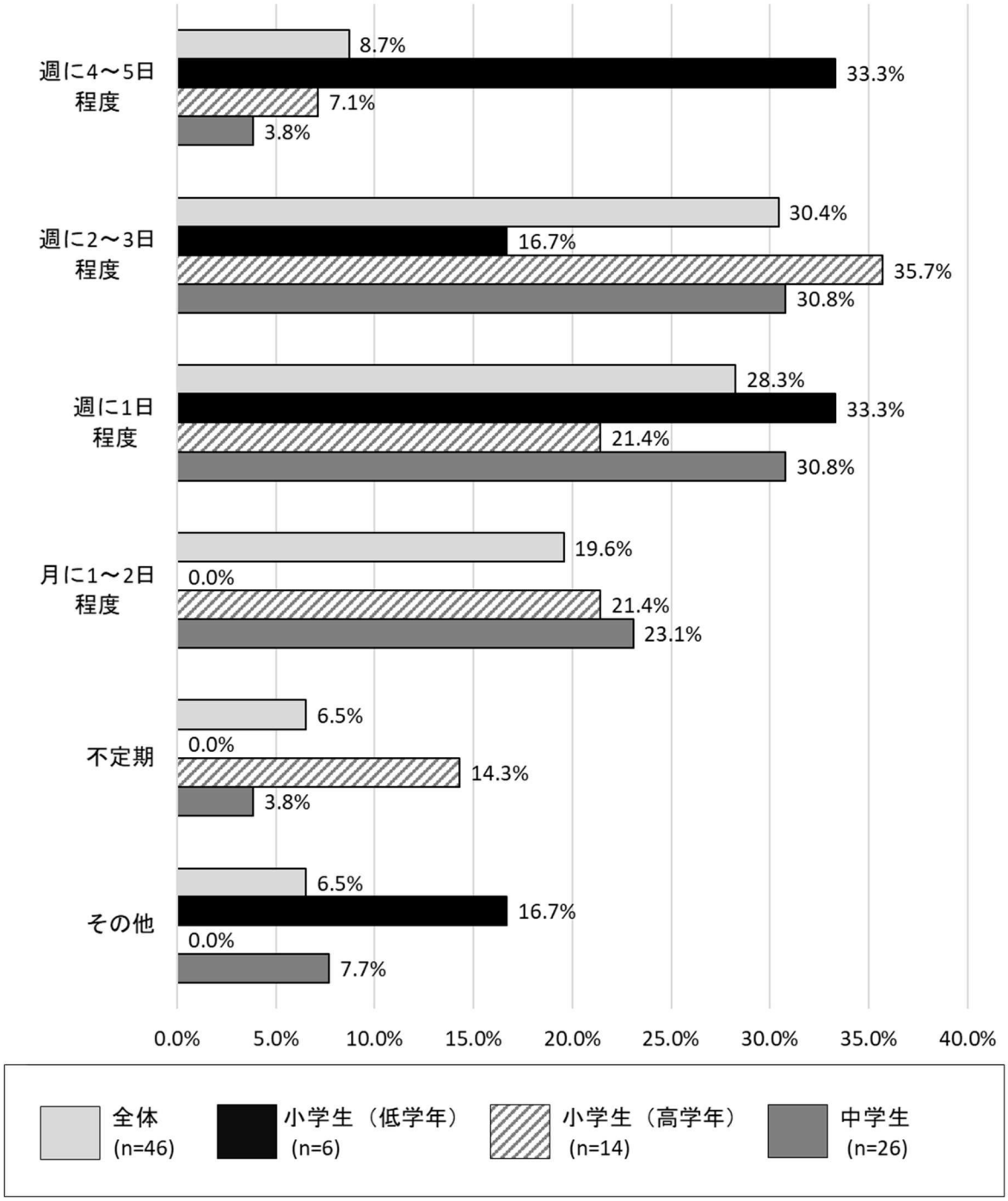
全体では「スタッフの対応」が最も多く、小学生（低学年）では「施設の雰囲気」も同数で最も多くなっています。小学生（高学年）では「施設の雰囲気」が最も多く、中学生では「スタッフの対応」が最も多くなっています。



16.通う頻度

問16　フリースクール等の民間施設を利用したことがある場合、お子さまはどのくらいの頻度で通っていましたか。(当てはまるもの一つに○)

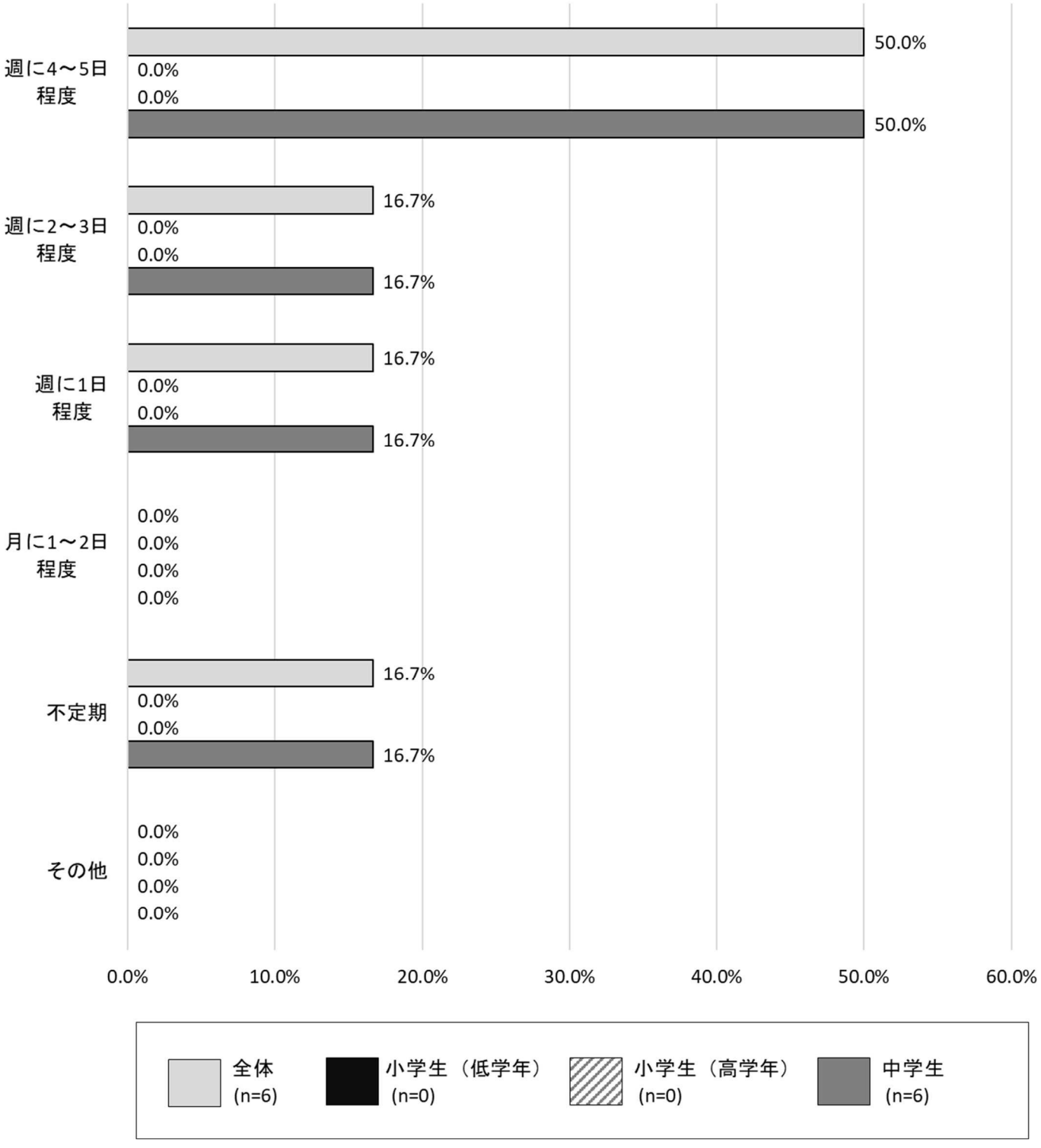
全体では「週に2～3日程度」が 30.4％で最も多く、次いで「週に1日程度」が28.3%となっています。区分別では小学生(低学年)は「週に4～5日程度」「週に1日程度」、小学生(高学年)は「週に2～3日程度」、中学生は「週に2～3日程度」「週に1日程度」が最も多くなっています。



17.利用頻度（オンライン）

問17　オンラインのフリースクール等の民間施設を利用したことがある場合、お子さまはどのくらいの頻度で利用していましたか。（当てはまるもの一つに○）

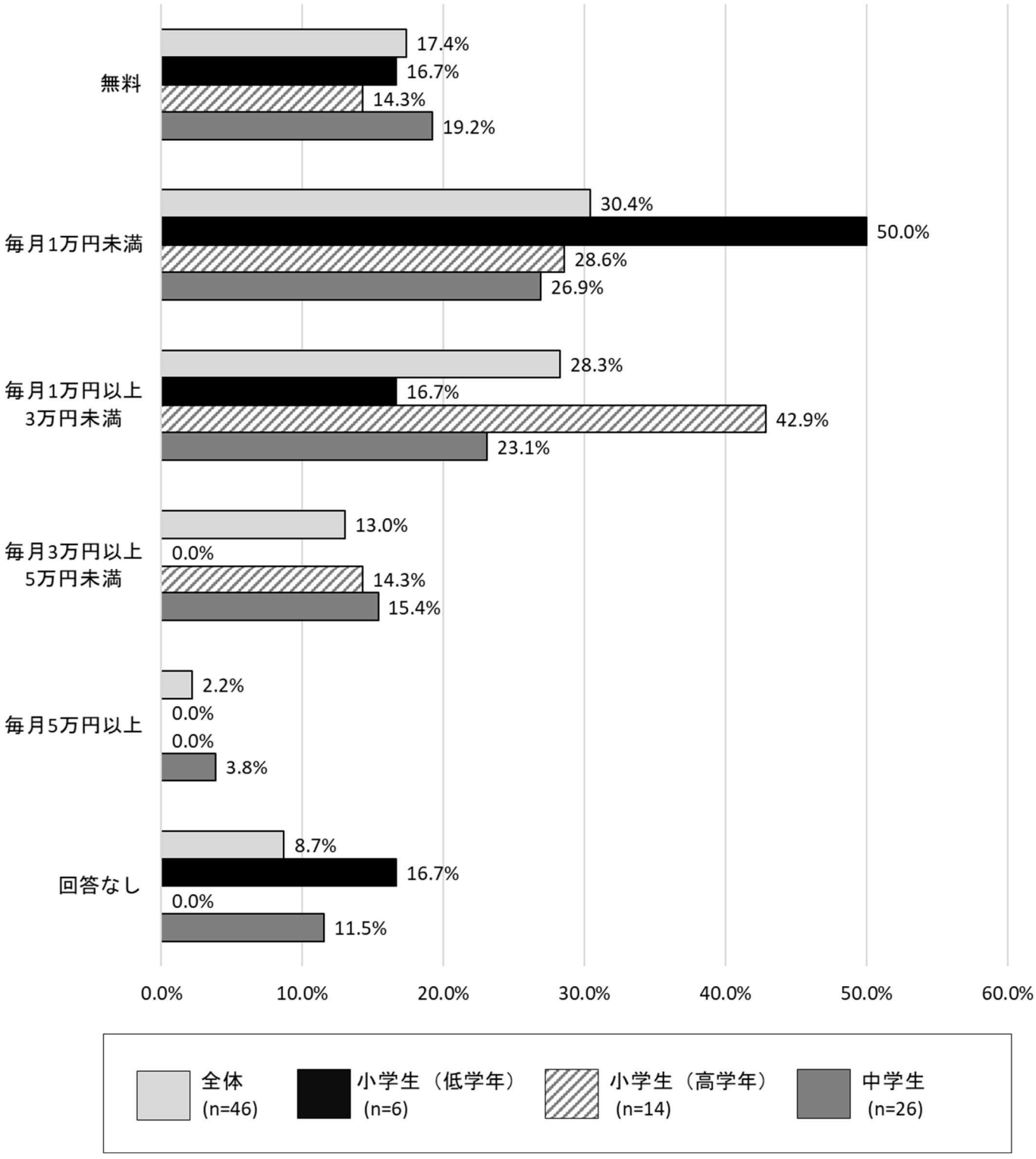
全体、中学生は「週に4～5日程度」が最も多くなっています。



18.毎月の費用

問18　フリースクール等の民間施設を利用したことがある場合、お子さまが施設を利用する際の毎月の費用はいくらくらいでしたか。（当てはまるもの一つに○）

全体・小学生（低学年）・中学生では「毎月1万円未満」、小学生（高学年）では「毎月1万円以上3万円未満」が最も多くなっています。



19.学校を休んでいる児童生徒への支援についての意見（自由記述）

問19　その他、学校を休んでいるお子さまに対するサポートについて、ご意見やご要望などあれば、自由に記入してください。

主な意見を掲載しています。個人情報が含まれる部分や、明らかな誤字・脱字については、プライバシー保護や読みやすさを考慮して、修正・削除などの調整を行っています。また、文章の長さやつながりの都合上、趣旨が変わらない範囲で一部を省略・要約して掲載している箇所があります。

①学校や教職員への対応・要望について

- 不登校の時期も放課後に週１回教室で担任の先生と活動してもらえたことで、今の登校につながっている。先生には負担をかけ申し訳なかったが、本当によくしてもらい感謝している。
- 休憩場所として保健室や空教室を使わせてほしい。
- 別室登校をしていた時、支援員の先生の勤務時間内でしか別室を利用できなかったので、支援員の先生が常駐している状況が欲しかった。
- 「学校へ行けない」という状況まで救えなかったのであれば、せめて、学習面でのフォローは行ってもらいたいと思う。
- 学校は、先生によって不登校への理解、対応、支援の情報に差がある。
- 毎日、欠席連絡を入れる事がわずらわしい。行く日（テスト日のみ）決まっているので、欠席　連絡をなくしてほしい。
- 学校は何の支援もしない。母親が付き添いで1日学校にいても、特に何もサポートもないと感じている。早くよいフリースクールに出会いたい。
- 担任の先生との懇談は、スクールカウンセラーも同席していいのではないかと思う。
- 先生の温かい支援のおかげで、今年は継続して学校に通えている。感謝している。
- ある一定の日数を休んだら、提供する情報（フリースクールや今後どうしたらいいか。）をどの先生もそろえてほしい。
- スクールカウンセラーが利用しにくい。予約もとりにくいし、専用の部屋もなく、校内放送がうるさくて話が聞こえないなど劣悪な環境。
- すべての学校に校内フリースクールの設置と専任の教師と支援員がいてスムーズに移行できればこんなに不登校が増えることはないのにと思うが、それをせず民間ばかりに頼っている。
- 特別支援学級に所属しているのに、意味がない。こどもが安心して通える学校になれば嬉しく思う。特別支援学校と同じような手厚いサポートが必要（研修などでも可）。正しい知識を持った先生を特別支援学級の担任にしてもらいたい。

・ 授業の進捗状況が分からないため、家でのサポートがしづらい。また、提出物や宿題を共有してもらえたら、家での取組みの仕方が変わったと思う。親から都度、学校に聞けば教えてもらえると思うが、学校から発信してもらえればありがたい。
・ 別室が利用できる時間が午前しかない。5～6 時間目まであるとうれしく思う。
・ 担任の先生以外に、積極的に様子を伺って協力してくれる先生が学校にいてほしい。担任の先生には親身になってもらっているが、クラス全体を見ているので、一人だけに割く時間がそんなにないと思う。
・ フルタイムで保護者が働いている場合の相談先や、様々なとれる対策がなく、こどもが学校に行けない状態が続いている。学校への連絡も 18 時以降はできず、仕事をしながらの対応ができずに困った。
・ ギフテッドへの対応は少しずつ広がっていっているが、公立小学校でももう少し柔軟に対応してほしい。

②学校外の支援先について
・ 放課後等デイサービスやフリースクールで過ごすことで、少しずつ自分に自信を持てるようになり、登校への意欲につながった。事業所の先生方がいなければ、学校のサポートだけでは登校は難しかったと思う。
・ 学校外に行きやすい場所があればいいと思う。フリースクールもあるが、本人にとってはなかなかハードルも高い。また、費用面での負担も多い。学校に行けなくなると、こどもを置いて仕事に行くのは不安や心配な面もあり、経済的にも厳しくなるのでその辺りのサポートもしてもらえるとありがたい。
・ 公民館などの身近な公共施設に、ただいるだけでいい居場所があったらいい。
・ 同じようなこども同士でコミュニケーションをとれる場があればいいと思った。

③オンラインによる支援について
・ 家庭以外の交流の場が少ない、家から遠い。親から離れることや外出することに不安があるので、家から遠いとそれだけで行くハードルが上がる。オンラインで交流できる場を作ってほしい。
・ 家を出られない、出づらいこどもたちのために、オンラインフリースクールへも利用料の補助をお願いしたい。
・ オンライン授業があればありがたい。通信制高校のようにスクーリングとレポートでも授業を受けたことになるようにしてもらえると、心の病で学校に行けない子が高校受験で不利にならないと思う。
・ クロムブックで授業を配信してほしい。

④児童生徒支援教室・りんくすについて

- 児童生徒支援教室の対応が事務的、機械的で驚いた。不登校児、親へ寄りそう雰囲気はなかったし、支援プログラムによって利用回数が決められているのが使いづらそうに思った。
- 児童生徒支援教室は、学校に行けない日の心の拠りどころだった。テストも児童生徒支援教室なら受けられていたのに、毎日や、週何回か通わないと受けられなくなり、それから、定期テストが受けられていない。そのような個別状況に応じて判断してもらえず、不登校の子の現状を何も分かっていないと思った。
- 児童生徒支援教室を夏休み中も週に 1～2 回で良いので利用させてもらえると嬉しい。
- 児童生徒支援教室については、先生方の対応もとても丁寧で安心して通えている。無料で通えることに感謝している。

⑤学習支援について

- りんくすにはもう少し学生がいるといいと思う。ネットや個人の対面でのボランティアで勉強を教えてくれる所や、家庭に来てもらえるサービスがあるととてもありがたい。そういう形なら学べるのだが民間だと高すぎてできない。
- 勉強をサポートしてもらえるところがなく、一回離れたら、ついていけない（自分は勉強していないからムリ）と思う様になり、ますます学校への意識が離れた気がする。学校へ行かない日は家で過ごしているので健康面も心配。
- 無料の学習支援・教材があるとありがたい（数学や英語）。
- 小学校の間はまだいいが、中学になってからが不安。学校出席とみなされる課題等があればと思う。

⑥保護者支援について（親同士の交流・相談支援含む）

- 体調不良（特定疾患）の場合のサポートは、自分から情報を探しても情報が少なすぎる。行きたくなくて行かない、行けないのではなく、体調不良で行けない場合、フリースクールの利用も難しいのではないかと思う。進路に関しても、どこにどのように相談したらよいか、相談先が見つけたい。
- 共働きの家庭でこどもが不登校になったら、仕事を辞めないといけなくなるような環境が辛い。平日、家でこどもが 1 人でいることに不安や焦りがある。同じような家族と話がしてみたい。
- お昼ご飯を作ったり考えたりするのが大変なので、何かサポートがあるとうれしい。

・ どんな支援があるのかが分かりにくく、情報を得るのに苦労したので、もっと分かりやすいといいと思う。例えば、不登校になりかけたときに、学校から支援の一覧表（パンフレット）を配る、とか、担任の先生からまずここに行くのがおすすめなど言ってもらえるといいと思った。
・ 進路について、いつ頃から、どのように親が動けばよいかが分かりやすいものかあるとありがたい。

⑦経済支援について

・ 学校の集金などを免除してほしい。
・ 金銭面の援助を増やしてほしい。
・ 経済的余裕のない家庭（障害を持った家庭、親が働けないなど含めて）など支援を考えてほしい。
・ 給食費を事前に止めなくても、休んだ日の分、返却してもらえたらうれしい。食べるかもしれないので、事前に決めかねる。

⑧医療福祉について

・ 女性の専門医の紹介等。
・ 放課後等デイサービスの充実。利用するときの書類関係を簡単にしてほしい。
・ 障害のある不登校児に対しては、個別支援会議等を経て、放課後等デイサービスの支給量の増枠について前向きに検討してもらいたい。

⑨その他

・ 知的障害や発達障害の診断があるわけでもなく、飛び抜けた才能があるわけでもなく、しかし興味のあること（特に科学）には力を発揮できる。このようなこどもたちは、学校生活には難しさがある一方で、興味のある環境では安心して力を発揮できる。そのようなこどもたちが支援の隙間に取り残されてしまっていると感じる。
・ 高校の情報、特に通信制を岡山市のホームページでまとめてもらえると助かる。費用も問い合わせないと分からないので中々気軽に調べられない。
・ 他県より引っ越してきたが、岡山市の不登校児に対する手厚いサポート（児童生徒支援教室）には感銘を受けた。温かい指導員の方ばかりで、孤立無援になりがちな不登校児家庭にはありがたかった。ただ、この制度は公立の保護者から聞いて知った。私立に在籍していると知ることができない。
・ 本人は「学校」に行きたい。
・ アンケートの実施に、感謝の気持ちでいっぱいだ。

- 学校との繋がりを完全に切るのではなく、籍は置きつつも、普段の懇談や必要な書類のやりとり、集金の窓口を学校外（例えばオンライン経由、学校外機関など）にしてもらえると、親子共に自分たちのペースでより安心して不登校という選択をし、日々過ごすことができるのではと感じている。
- 不登校児をただのサボりだと思っている現状を何とかしてほしい。通信制コースを設けてほしい。
- 今はどうしたらいいのかよくわからない。
- 心の傷がある場合、なかなか学校に行きづらいのを無理やりには言えない。家でゆっくり過ごす中で、表情も安心してよくなったとしても次の段階に向かいづらい。再び学校へ行ける様に声かけすると、学校に行こうという気持ち自体が薄れており、親も仕事に行きたくても、昼ごはんを作らないといけないし、ひとりなら自由にすごすことになり、テレビ・ゲーム、勉強もしないという事につながるので、難しい問題になる。フリースクールや支援教室にも行きリズムのある生活もしたいが、近所ではないので、車で連れていく事になる。今はそういう所にも行きたくない様で困っている。
- 不登校のこども全員に必要だとは思わないが、学校へ復帰したいと思ったこどもへのサポートが少ないと感じる。
- 専門的な視点で検討し、その場しのぎではない継続的なサポートをしてくれると助かる。
- 自己肯定感を大切にして今を過ごせたらいいと思っている。
- 不登校になり時間が経つと元気になり身体を動かしたくなっている。学校の部活はちょっとハードルが高く、民間の施設も中学生になるとなかなか参加できるところが少ない。
- 学校を休む理由を話したくないようなので、解決策が分からない。本人が話しやすい相談できる環境があればいいと思う。
- 学校で教えてくれる勉強以外の情報（例えば、交通安全指導、性教育、インターネットでのトラブル回避など）に触れる機会がほとんどなく、親もすべて指導できるものでないので、オンライン動画などあれば視聴したい。
- 学校教育の在り方を、変えていくときが来ているのではないかと感じている。
- 学校に行きたいけど不安が大きい。不登校が続くと徐々に生活リズムも崩れてきつつあり、今はどうすれば良いか分からない状況。
- 学校に行かないのは行きたくないからではなく本当はいきたいけれど行けない…ではどうするかを考えるチャンスとして実態を知ってほしい。